

平成 25 年度 事業報告書

公益財団法人浜松地域イノベーション推進機構

平成 26 年 6 月

平成25年度 事業報告 目 次

平成25年度事業報告に当たって	-----	P1
公Ⅰ 異分野・異業種交流、情報の収集・提供、相談事業		
1. 広報事業	-----	P2
(1) ホームページ、メールマガジンによる情報発信		
(2) 「イノベーションはままつ」の発行		
(3) 浜松地域産業支援ネットワーク会議		
(4) 調査・分析事業		
2. 相談事業	-----	P3
(1) 各種相談		
(2) 専門家派遣事業		
3. 研究会推進事業	-----	P5
(1) 異業種交流グループ		
(2) 成長分野研究会		
(3) その他		
4. 産学官連携推進のためのフォーラム等開催事業	-----	P7
(1) 静岡理工大学 産学官連携フォーラムの開催		
(2) メディカルイノベーションフォーラム 2014 の開催		
公Ⅱ 基盤技術の継承、産業人材の育成、研究・技術開発成果の実用化		
1. 人材育成事業	-----	P8
(1) 新素材基礎技術講座		
(2) 中核人材育成講座		
(3) はままつデジタル・マイスター(HDM)養成講座		
(4) パワーエレクトロニクス技術講座（基礎）		
(5) 技術経営講座		
(6) 起業家精神・ものづくり精神啓発事業		
(7) 浜松マイスター推進事業		
2. 知財活用推進事業	-----	P21
(1) 知財に関する相談事業		
(2) 知財講演会、講習会開催事業		
(3) 特許等出願支援補助金事業		
(4) 「はままつ知財研究会」との連携		
(5) 特許流通支援事業		
3. はままつ起業プロデュース事業	-----	P25
(1) 新事業プロデュース事業		
(2) 起業に伴う個別相談・販路開拓支援		
(3) 城北図書館起業家交流サロン事業		
4. 半田山T B G活用運営事業	-----	P27
5. 地場産業振興事業	-----	P28
(1) 繊維製品の普及拡大		
(2) 「バイクのふるさと浜松 2013」実行委員会事務局運営事業		

6. 技術開発・新産業創出支援事業	-----	P31
(1) 浜松地域 CFRP 事業化研究会		
(2) 浜松地域チタン事業化研究会		
(3) 浜松地域マグネシウム事業化研究会		
(4) 浜松地域ウルトラハイテン事業化研究会		
(5) 浜松地域パワーエレクトロニクス事業化研究会（パワエレ研究会）		
(6) 新産業創成事業		
(7) 次世代環境車推進事業		

公III 研究・技術開発成果の事業化

1. 地域イノベーション戦略推進事業	-----	P41
(1) 異分野・他分野融合の場「知のプラットホーム」		
(2) 若手・中堅の研究者及び技術者の育成		
(3) コーディネーター人材の充実		
(4) グローバル展開の強化		
(5) 長期的教育システムの研究		
2. 国等の研究開発事業化支援事業	-----	P47
3. 市場・販路開拓支援事業	-----	P48

公IV 債務保証事業

1. 債務保証事業	-----	P50
-----------	-------	-----

公V 高度技術振興事業

1. 研究開発支援事業	-----	P52
2. 情報技術者等養成研修事業	-----	P54
3. 研究成果の事業化支援事業	-----	P54
4. 次世代自動車等技術調査事業	-----	P56

公VI 地域産業活性化事業

1. 地域産業活性化補助金交付事業	-----	P57
2. 総合展示会「はままつメッセ」の開催	-----	P57
3. 商品化、事業化支援事業	-----	P59
4. 販路開拓のための人材育成事業	-----	P60

参考資料

財団の運営

1. 基本財産及び基金	-----	P62
2. 役員及び委員	-----	P63
3. 会議	-----	P65
4. 研究会推進事業	-----	P67
5. 賛助会員	-----	P68
6. 事務局体制	-----	P69

平成 25 年度事業報告に当たって

平成 25 年度の我が国経済は、アベノミクス効果に加えて、消費増税前の駆け込み需要や堅調な設備投資等により、1年を通じて国内総生産（GDP）のプラス成長が続きました。年ベース換算の実質 GDP の規模も過去最高（内閣府速報値）を記録し、日本経済全体が回復基調を実感するに至りました。

静岡県内においても、上場企業全体の 3 月期決算は、営業利益、純利益ともリーマンショック前の平成 20 年 3 月期を 6 年ぶりに上回る中、西部地域の主要企業も円安の後押しを受けて過去最高益を更新しました。

中小製造業に目を向ければ、業況判断指数（DI）が 4 四半期連続で改善し、平成 26 年 1~3 月期は平成 19 年 12 月期以来の高い水準となりました。自動車、二輪車、機械、繊維など製造業全体で業況が改善傾向にあり、回復のスピードが遅いと言われてきた西部地域においてもやっと景気回復の兆しが現れてきています。

しかしながら、当地域の産業構造は、輸送用機器産業に大きく依存しており、引き続き輸送用機器産業を大切にするとともに、成長分野に新たな産業を育てるなど、構造改革を進めていかないと、業績改善も一時的なものに終わってしまう恐れがあります。

また、総務省発表の「平成 25 年人口移動報告」によれば、静岡県は転出者が転入者を上回る「転出超過」が 6,892 人で、北海道（8,154 人）に次ぐ全国ワースト 2 位。県内では、静岡市（775 人）、浜松市（411 人）を含む 28 市町村で「転出超過」となっており、産業の再生や新産業の創出による地域の活性化、それに伴う雇用の拡大は、産業政策としてだけでなく地域社会全体の課題と言えます。

こうした中、当財団は、平成 24 年 4 月の公益財団法人への移行から 2 年が経過し、地域の総合的な産業支援機関として、浜松市の「はままつ産業イノベーション構想」に基づく委託事業や、文部科学省に採択された「浜松・東三河ライフフォトニクスイノベーション構想」に基づく支援事業を推進するなど、中小企業の経営資源の強化や新規事業展開への支援に積極的に取り組んできました。

具体的には、地域の産学官金の連携の下に、創業をはじめとする各種の相談業務のほか、新技術・新製品開発、新事業展開、販路開拓、さらには、経営者・技術者の人材育成、知財活用や資金確保など、企業のニーズに対応した各段階での支援に取り組んでまいりました。

景気回復基調にあるとはいえ、中小企業を取り巻く環境は、技術革新や新興国台頭による価格競争、空洞化など、依然として不確実で厳しい状況にあります。お客様である地域企業が、新たな価値を創造する真のイノベーションを実現し、海外を含む市場の獲得や競争力の強化を通じて、持続的な発展を遂げていけるよう、当財団は引き続き、事業成果の検証と「成果の見える化」に努め、PDCA による事業の見直しを図ってまいります。

地域の総合的な産業支援機関として、お客様の目線に立って、地域企業の置かれた状況をしっかりと認識し、そのニーズに的確に応える事業を積極的に展開するとともに、良き「伴走者」として、財団が存在価値を高め、地域企業にとって真に必要な機関となれるよう、職員が一丸となって、全力で取り組んでまいります。

平成25年度事業報告

公Ⅰ 異分野・異業種交流、情報の収集・提供、相談事業

技術、知財、市場、販路等、国内外の多方面にわたる産業情報の収集・発信をはじめ、地域中小企業の経営・技術等の相談業務や情報提供、異業種交流を推進し、地域産業の活性化を図る。

1 広報事業

決算額 5,751 千円（予算額 3,400 千円）

【目的】

地域企業や大学・研究機関等の活動や国・県・市等の施策動向の把握及び分析により、財団が展開すべき支援策を検討するとともに、研究開発や事業化、販路開拓等に有益な情報を発信することにより、地域産業の活性化を図る。さらに、地域産業の情報を他地域にも発信する。



【実施内容】

(1) ホームページ、メールマガジンによる情報発信

ホームページについては、当財団の支援制度や発行物、他地域支援機関の情報を随時発信するとともに、地域イノベーション戦略推進プログラムやはままつメッセ等の専用サイト、国・県等の補助金制度情報の閲覧ページを設置し、幅広い産業支援情報の発信に努めた。また、海外企業及び地域との連携に向け、財団の組織体制や沿革、施策等の基本情報に関する英語版サイトを設けたほか、新設ページの翻訳に対応できる英語自動翻訳ツールを導入し海外展開の資料作成に活用した。

メールマガジンは当財団をはじめとする公的機関、各種支援機関からの講演会、講習会、補助金などの産業支援情報やお役立ち情報を掲載したメールマガジンを年間24回（毎月第1・第3水曜日）配信した。

(2) 「イノベーションはままつ 2013 No.2・3」の発行

情報誌「イノベーションはままつ 2013」を2回発行し、当財団の事業実施報告や各種募集案内等を行った。（地域企業あて発送数 約580件）

(3) 浜松地域産業支援ネットワーク会議

地域の7つの産業支援機関からなる「浜松地域産業支援ネットワーク会議」の事務局を担い、地域で取り組む产学研連携や中小企業支援等の情報を共有するとともに、相互の事業効果を高めるための協力・連携策を検討し、財団ホームページ内に構成機関のお知らせページを設けたほか、メールマガジンの相互利用を積極的に推し進めた。

(4) 調査・分析

帝国データバンクの企業概要データシステム「COSMOS」を導入し、県西部地域の製造業約2,000企業の情報を取得した。また、取得データを整理する中で、当財団が保有する約800企業の情報との整合を図り、データベースの構築作業を進めた。

【成果指標】

項目	実績		目標
	平成24年度	平成25年度	
①ホームページアクセス件数	24,179件	26,770件	28,000件
②メールマガジン配信件数	1,236件	1,314件	1,500件

【総括】

ホームページ、メールマガ、情報誌等により、国・県・市等の施策動向や支援制度等に関する情報を発信した。とりわけホームページについては、アクセス件数が前年度比2,500件増の26,770件、新規訪問数が前年度比約1,000件増の11,696件、ページビュー数が前年度比10,000ページ増の65,136ページとなった。閲覧ページを分析したところ、各種募集やお知らせ一覧の閲覧数が前年度に比べて伸びており、関連支援機関情報のお知らせページの積極的な運用や迅速な掲載が、地域企業のニーズにマッチした成果と捉えている。また、ホームページ閲覧の参照元を見ると、googleやyahoo等の大手検索エンジンに続き、直接ホームページを開いているパターンが多く見られる。このことは、当財団のホームページをデフォルトページに設定している場合やメールやメールマガなどに記載したURLからページを開く場合などが想定される。

こうしたことを踏まえ、今後は地域産業支援機関の中核的存在として、様々な支援情報の集約・発信を強化するとともに、当財団のホームページへの誘導を通じて固定的な閲覧者の増加を図る。

調査・分析については、取得した企業データの整理が大方終了しデータベースの基礎ができつつある。今後は運用可能なデータベースの構築を進めるとともに、このデータベースを企業支援策の検討材料や企業相談のツールとして活用する。(企画・広報G：松下恵介)

2 相談事業

決算額 4,203千円（予算額 4,400千円）

【目的】

中小企業者や個人経営者等が抱える経営、技術、人材、特許等の種々の課題に対し、経営・技術・知財のコーディネーターが相談に乗り、適切な助言を行うとともに、財団登録の専門家を派遣することにより問題解決を図る。

【実施内容】

(1) 各種相談

相談項目		H25(件)	対前年比(H25/H24)	H24(件)
技術相談	技術開発	63	131.2%	48
	人材	7	700.0%	1
	その他	54	61.3%	88
	小計	124	90.5%	137
経営相談	資金	36	25.3%	142
	創業	24	40.6%	59
	販路開拓	211	57.1%	369

経営相談	新事業展開	113	713	100.1%	712	
	海外進出・海外事業展開	208				
	補助金・競争的資金	121				
	広報・宣伝	10				
	法令・専門家派遣等	41				
	事業計画・計画改善	34				
	その他	186				
	小計	984				
知財相談	技術移転	7	701	133.3%	526	
	特許	336				
	実用新案	38				
	意匠	73				
	商標	203				
	ノウハウ	2				
	社内体制	5				
	その他	44				
小計		708	133.8%		529	
相談総件数		1,816	93.2%		1,948	

※平成 25 年度からは経営相談の詳細を細かく把握するために細分類とした。

(2) 専門家派遣事業

分 野	H25		H24	
	対象企業数	派遣回数	対象企業数	派遣回数
経 営	30 社	110 回	26 社	83 回
技 術	2 社	10 回	6 社	23 回
知 貢	0 社	0 回	0 社	0 回
合 計	32 社 (100.0%)	120 回 (100.8%)	32 社	106 回

※ () 内は、対前年比 (H25/H24)

【成果指標】

項目 (3段階)	実績 (平均値)		目標
	平成24年度	平成25年度	平成26年度
企業数	32 社	32 社	35 社
①専門家の助言内容	2.9	2.9	3.0
②専門家の態度	2.9	2.9	3.0
③専門家とのマッチング	2.9	2.8	2.9
④専門家の助言のわかりやすさ	2.8	2.8	2.9
⑤専門家の助言の進め方	2.7	2.8	2.9
⑥専門家の総合評価 ※5段階	4.7	4.5	4.8

※①～⑥は企業からのアンケート評価。3段階の最高点は3、5段階の最高点は5。

【総括】

相談事業によって地域の市場動向や企業等が抱える課題等を常に最新の状態で把握することができ、それらの情報を活かしながら、地域企業の課題解決のために財団のコーディネーターやコンシェルジュが日々活動している。

平成 25 年度の相談内容としては、知財相談の件数が大幅に増加している。経営相談では「販路開拓」「海外進出・海外事業展開」「補助金・競争的資金」「新事業展開」が多く、知財相談では「特許」「商標」が多い。

具体的な事例としては、平成 20 年秋のリーマンショック以降悪化した地元の二輪車部品製造業会社は、長年培った技術力やノウハウを活用し、クラリネットやサクソホンのマウスピースとリードを固定する締め具を世界で初めてフルアルミで製作した。機構としては、複数の地元企業とのマッチングや特許・商標登録等などをサポートし、異分野進出に貢献した。この事例のように、地域において柔軟な発想で地域連携や異分野進出の可能性を探ることが、今後の生き残りにつながるようなケースが多々ある。今後も、可能性のある企業を開拓しながら地域連携・異業種同士をマッチングさせて、市場の新規開拓を促すことに役割を果たしていきたい。

また、海外進出・海外事業展開の相談事例としては、浜松市において創業した、企画・開発から製造まで全て自社で行っている海釣り用ルアー製造会社がある。大手では取れない戦略により、国内販売は順調に推移し、海外へ進出したいとの相談があつた。連携・販路開拓先の紹介と特許・商標等のサポートを行った。特に海外展開については専門家派遣制度を使い、海外展開のノウハウをはじめ、社内体制の整備にて成果をあげた。海外出展については、機構の海外出展支援事業補助金を活用。2013 年 6 月にオーストリアで開催された EFTTEX2013 に出展し、ブースには 700 名（200 社）が来場し、名刺交換は 94 枚、販売先も獲得できている。結果として展示会出展後には、卸・小売店・輸入業者へのアプローチの仕方から、価格設定・納期・取引条件などについて、社内ノウハウを蓄積することができ、サポートに対する高評価をいただいた。2014 年度は北米への展開も予定している。今後も、年々増加している海外進出・海外事業展開の事案については積極的に取り組んでいきたい。

また、平成 26 年度の専門家派遣制度については計画的且つより効果的な事業運営を行うため、派遣申請書の見直しや新しい事後評価調査書を導入し、コーディネーターの行動がどう企業にとっての成果に繋がったかを指標として検証できる改善を行い、制度の充実を図っていく。現在派遣制度を実施した企業からは高評価（成果表参照）を頂き、本事業制度の支援企業に果たしている役割は大きいと考える。相談事業は短期間で解決する事例もあるが、前述の企業のように異分野に参入していく企業も増え、相談内容も複雑かつ時間を要するため、継続件数の増加要因ともなっている。26 年度は専門家制度における専門家への謝礼を 1 回あたり 3 万円から 2 万 7 千円に減額し、派遣回数を 16 回分増加する。それにより予算上の制約を多少改善するとともに、地域企業等が抱える課題等をより多く支援することにも努めていく。さらに、販路開拓支援に続き年々増加傾向にある相談内容として、BCP 等のリスク対策や NSF 認証の取得を行い、海外展開等を計画するケースが挙げられるが、どれも企業経営にとって重要な相談業務であり、常にコーディネーターが現場に立ったサポートをしていく。特に中小企業が自社で切り開くのが難しい海外展開に関する案件に対しては、財団の展示会補助金制度等ともリンクさせながら、海外事業展開を支援していく。（市場・販路開拓 G：岩井敏雄）

3 研究会推進事業

決算額 一 千円（予算額 一 千円）

※研究会費の 2 割を受けて事務局運営を担う

【目的】

各種研究会の事務局として、総会や幹事会、セミナー、講座等の運営に係る側面支援を行うことにより、企業間の連携・交流を促進する。

【実施内容】

(1) 異業種交流グループ

①TM プラザはままつ

正会員数 34 社 (H26.3 現在)

講演会「アベノミクスと地域力強化」他 2 回

企業視察「新日鉄住金和歌山製鉄所」他 3 回

②浜松技術交流プラザ 82

正会員数 14 社 (H26.3 現在)

講演会「市場の拡大と収益の確保」他 3 回

企業視察「名古屋誘導推進システム製作所・東明工業(ソフトウェア産業振興研究委員会と共に)」他 2 回

③都田アソシエイツ

正会員数 56 社 (H26.3 現在)

講演会「これから日本の製造業について」他 1 回

企業視察「株システック」他 2 回

(2) 成長分野研究会

①VB・VC 研究委員会

正会員数 17 社 (H26.3 現在)

講演会「航空宇宙分野における高性能複合材料の利用」他 3 回

②ソフトウェア産業振興研究委員会

正会員数 31 社 (H26.3 現在)

講演会「3Dプリンタの活用方法と業界動向について (VB・VC 研究委員会と共に)」他 3 回

企業視察「名古屋誘導推進システム製作所・東明工業(浜松技術交流プラザ 82 と共に)」

③先端精密技術研究会

正会員数 法人 48 社、個人 21 名 (H26.3 現在)

講演会「新しい市場の作り方」他 3 回

見学会「株エヌエスティ・榎本工業㈱」他 1 回

④次世代設計・製造構造研究会

正会員数 20 社・3 校 (H26.3 現在)

話題提供「日本に製造業を残すための戦力」他 3 回

(3) その他

①浜名湖のりブランド推進協議会

平成 25 年 8 月 16 日臨時総会開催

8 月 16 日をもって組織体制変更 今後は遠州食品加工業協同組合として活動

【成果指標】

項目	実績		目標
	平成 24 年度	平成 25 年度	
円滑な事業運営	—	—	—

【総括】

各種研究会の事務局として、総会や幹事会、セミナー、講座等の運営に係る側面支援を行った。セミナー、講座の開催に当たっては、講師調整や広報、会場受付を行い、円滑な運営に努めた。

各種研究会が実施した事業の参加総人数は微増に留まったものの、研究会事業の実施回数自体を整理したことを踏まえると、各会の平均参加人数は 3 割増加となっており、財団の広報ツールを効果的に活用した周知が功を奏したと捉えている。また、他の研究会との共催の増加や会員以外の参加呼びかけなどにより、研究会の枠組みを越

えた研究会を核とした連携を促した。

平成 26 年度は当財団のメルマガやメールリストを活用し、研究会活動の周知に取り組むとともに、ホームページ上のネット申込のシステム構築などを通じて、事業参加者の増加を図る。（企画・広報G：松下恵介）

4 産学官連携推進のためのフォーラム等開催事業

決算額 4,091 千円（予算額 4,800 千円）

【目的】

地域における産学官連携の充実と市民・産業界への情報発信を図るために、浜松医科大学、静岡理工科大学が開催する産学官連携フォーラムに対し、財源と広報に関する支援を行う。

【実施内容】

(1) 静岡理工科大学 産学官連携フォーラムの開催

開催日：平成 25 年 11 月 26 日(火)

会 場：ホテルクラウンパレス浜松

主 催：静岡理工科大学、公益財団法人浜松地域イノベーション推進機構

共 催：浜松市

後 援：静岡県、浜松商工会議所、袋井市ほか 12 団体

参加者数：140 名

内 容：特別講演「しぜん・CO₂・リサイクルそして除染」

　　公益社団法人全国産業廃棄物連合会 専務理事 森谷賢 氏

その他：研究事例発表、研究内容に関するパネル展など

(2) メディカルイノベーションフォーラム 2013 の開催

開催日：平成 26 年 2 月 27 日(木)

会 場：グランドホテル浜松

主 催：浜松医科大学、公益財団法人浜松地域イノベーション推進機構

共 催：静岡県、浜松市、静岡大学、豊橋技術科学大学、光産業創成大学院大学、
浜松医工連携研究会（浜松商工会議所）

参加者数：123 名

内 容：基調講演「想像する創造～未来をつくる道～」

　　公立大学法人名古屋市立大学大学院芸術工学研究科 教授

　　附属環境デザイン研究所 所長 國本桂史 氏

　　パネルディスカッション「新しいアプローチで医療機器を開発する」

【成果指標】

項目	実績		目標
	平成 24 年度	平成 25 年度	
フォーラム参加人数（平均）	160 名	132 名	175 名

【総括】

浜松医科大学、静岡理工科大学における産学官連携フォーラムは、本地域における次世代産業の創出に向けて、大学主導で開催されており、本財団は会場利用と広報活動に対する財源支援を行った。

当フォーラムは産学関係者によるパネルディスカッション等を通じて、有識者のそれぞれの立場から取組紹介や事例発表を行うなど、大学と産業界との連携強化を図るものである。当財団としては、平成 26 年度も引き続き財団の広報ツールやネットワークを積極的に活用し、幅広い周知と集客に努めていく。（企画・広報G：松下恵介）

公Ⅱ 基盤技術の継承、産業人材の育成、研究・技術開発成果の実用化

地域産業を支える基盤技術や大学の保有技術、地場産業の伝統技術等の地域資源を活用しながら、起業家から中核人材、経営層に至る様々な階層の人材を育成するとともに、研究開発から成果の実用化までの一連の支援を通じて、既存産業の高度化と新産業の創出を目指す。

1 人材育成事業

決算額 15,649 千円（予算額 15,300 千円）

(1) 新素材基礎技術講座

【目的】

次世代自動車（EV、HV）の普及が加速する中、燃費向上、環境負荷軽減のため、車体の軽量化が強く求められており、超高張力鋼板（ウルトラハイテン）をはじめ、炭素繊維強化樹脂（CFRP）やマグネシウム、チタン材料等の新素材の活用が必須となっている。これら新素材の材料特性、加工方法、用途展開などの基本を修得し、経営資源を強化して新しい事業拡大に結び付ける。

【対象企業と人材】

- ・輸送機器関連企業を中心に、新素材の活用を意図する企業
- ・製品設計、企画、製造、生産技術などに携わる技術者

【実施内容】

- ・開催日：平成 25 年 11 月 11 日（月）、22 日（金）、26 日（月）、12 月 4 日（水）
- ・会 場：イノベーション機構 8 階セミナー室
- ・受講人員：ウルトラハイテン 7 名 ※募集定員は各講座 20 名、個別受講。

C F R P	13 名
マグネシウム	14 名
チタン	7 名

【成果指標】

項目	実績		目標
	平成 24 年度	平成 25 年度	
①受講者数	平均 17 名	平均 10 名	各 10 名以上
②受講者の満足度	80%	80%	90%以上

【総括】

① 講座の特長

講師は、全員民間企業の第一線で活躍された経験、知識の豊かなトップクラスの技術者である。講座内容は高度で、具体的であり、最新情報に富んでいる。当地域での新素材に関する唯一の技術講座であり、国内でも有数のレベルである。

② 受講者の評価

年度前半に、前年度受講者のアンケート回答での要望をもとに講座内容の難易度を検討し、また講師には、高卒、機械系、入社 10 年の受講者を前提に平易な講義を依頼している。2、3 年経過し、受講生の講義理解度が高まり、質問も増えってきた。

③ 今後の課題

受講者のアンケート結果によれば、「大変参考になった」「参考になった」が大部分を占めており、講師が、国内トップの技術者に拠ることが大きい。しかしながら、受講者数が減少傾向にあることから、広く PR に力を入れることとし、新規企業の開拓を DM の利用、ポスター掲示など工夫改善を行うとともに、商

工會議所や静岡県産業振興財団等他の支援機関に働きかけることで受講者数の増加を図る。(新技術開発G：山田徹)

開催日	内 容	講 師
ウルトラハイテン 11月 22日 (金)	自動車用ハイテンの冶金的意味と製造技術	新日鐵住金㈱ 高橋 学 氏
	ウルトラハイテンの板材成形技術	J E F スチール㈱ 山崎 雄司 氏
	部品高強度化のための熱間プレス技術	新日鐵住金㈱ 中田 匡浩 氏
	総合討議	浜松地域イノベーション推進機構 山田 徹
マグネシウム 11月 11日 (月)	マグネシウム鋳造法の特徴と自動車分野への適用	㈱アーレスティ 武田 秀 氏
	マグネシウム合金圧延板材と適用事例	日本金属㈱ 佐藤 雅彦 氏
	マグネシウムの最新技術・新製品動向	森村商事㈱ 虫明 守行 氏
	総合討議	浜松地域イノベーション推進機構 山田 徹
C F R P 11月 26日 (月)	CFRP の材料特性と成形技術	東レ㈱ 山口 晃司 氏
	CFRP の自動車への適用	トヨタ自動車㈱ 影山 裕史 氏
	航空機における CFRP の現状と動向	大同大学 平 博仁 氏
	総合討議	浜松地域イノベーション推進機構 山田 徹
チタン 12月 4日 (水)	チタンの基礎～材質、分類、特性	一般社団法人日本チタン協会 伊藤 均 氏
	チタンの加工～プレス、溶接、切削	一般社団法人日本チタン協会 上瀧 洋明 氏
	日本のチタン産業とチタンの用途	一般社団法人日本チタン協会 木下 和宏 氏
	総合討議	浜松地域イノベーション推進機構 山田 徹

(2) 中核人材育成講座

【目的】

浜松地域の基幹産業である輸送用機器製造業を支える人材を継続して育てていくため、基盤製造技術（成形、加工、塗装、仕上げ、組立て等）を体系的に理解し、各々が担当する前後の工程を把握したうえで、広い視野でスキルアップができる人材を育

成すること。

【実施内容】

開催日：平成 25 年 5 月 28 日（火）～平成 25 年 10 月 28 日（月）約 100 時間

会 場：静岡大学工学部、神谷理研㈱、西尾精密㈱等

ポリテクカレッジ浜松（浜松職業能力開発短期大学校）、視察先企業

受講人員：19 名（14 社）※募集定員は 30 名

【成果指標】

項目	実績		目標
	平成 24 年度	平成 25 年度	
①受講者数	27 名	19 名	20 名以上
②受講満足度	82%	94%	90%以上

【総括】

①講座の特長

輸送機器製造業関連する基盤技術を体系的に学ぶことができる。

企業視察が多い。

②受講者の評価

受講者のアンケート結果によれば、「非常に満足」、「概ね満足」が 19 人中 18 人と大半を占める。

③フォローアップ講座の開催

過去受講者及び 25 年度受講者の更なるレベルアップと連携強化を目的に下記の視察・現場実習・講座を開催した。

④今後の課題

平成 24 年度には、受講者から多くの現場と実習を希望する声が多かったので、平成 25 年度にはポリテクカレッジでの実習を加えてカリキュラムの充実を図った。しかしながら、受講者からは更なる実習と現場見学の要望があった。

このため、平成 26 年度には、現場で講義し工場見学を行うスタイルを増強するとともに、実務に長けた講師陣へのシフトや公設機関と連携した実習の追加を行う。新規企業の開拓について、DM の利用、ポスター掲示、他地域への PR など増やしながら工夫改善を行う。（新技術開発 G：金原督和）

【講座内容】

開催日	内 容	講 師
5 月 28 日(火)	開講式	
	製造業における国際的視点の重要性	スズキ㈱ 常務役員 袴田 和夫 氏
	グローバルでのものづくり技術者育成（金型技術者の視点から）	沖縄県金型技術研究センター センター長 金城 盛順 氏
	新しい材料加工技術の動向と展望	静岡大学工学部 特任教授 中村 保 氏
6 月 7 日(金)	鋳造（基礎）	スズキ㈱ 第一生産技術部鋳造課 技術専門職 五島 貴治 氏
	鋳造（応用）※選択科目	岐阜大学 金型創成技術研究センター 教授 山縣 裕 氏
	ディスカッション（鋳造） ※鋳造（応用）受講者	

6月 11 日(火)	工場見学（鋳造メーカー）	㈱木村鋳造所
6月 19 日(水)	鍛造（基礎）	浜松工業技術支援センター 光科 上席研究員 鷲坂 芳弘 氏
	板材成形（基礎）	スズキ(株)生産管理部研修課 専任職 山下 進 氏
	板材成形（応用）※選択科目	JFE スチール(株) スチール研究所 主任研究員 山崎 雄司 氏
	ディスカッション（板材成形） ※板材成形（応用）受講者	
6月 27 日(木)	鍛造（応用）工場見学（1班）	西尾精密(株)
6月 28 日(金)	鍛造（応用）工場見学（2班）	相談役 西尾 真之 氏
7月 4 日(水)	切削（基礎）	
	切削（応用）※選択科目	静岡大学 名誉教授
	ディスカッション（切削）	鈴木 康夫 氏
	※切削（応用）受講者	
7月 9 日(火)	樹脂成形（基礎）	イオインダストリー(株) 製造部
	樹脂成形（応用）	次長 緑川 広貴 氏
7月 17 日(水)	実習 1 日目【板材成形（1班） 切削（2班）射出成形（3班）】 ※3 グループに分かれ、 3日間開催	ポリテクカレッジ浜松
7月 24 日(水)	実習 2 日目【板材成形（2班） 切削（3班）射出成形（1班）】	ポリテクカレッジ浜松
7月 31 日(水)	実習 3 日目【板材成形（3班） 切削（1班）射出成形（2班）】	ポリテクカレッジ浜松
8月 5 日(月)	工具メーカーにおける実地指導	オーエスジー(株)
8月 23 日(金)	輸送用機器完成車工程における 実地指導	スズキ(株) 湖西工場
8月 27 日(火)	溶接（基礎）	
	溶接（応用）※選択科目	静岡大学 工学部
	ディスカッション※塗装（応用） 受講者	准教授 酒井 克彦 氏
9月 3 日(火)	めっき・表面処理（基礎）	神谷理研(株)
	めっき・表面処理（応用）	代表取締役専務 神谷 武彦 氏
	現場見学	
9月 10 日(火)	塗装（基礎）	静岡大学 工学部
	塗装（応用）※選択科目	准教授 酒井 克彦 氏 松和(株) 製造部 第四グループ長 山下 幸弘 氏
9月 17 日(火)	加工設備メーカーにおける実地 指導	旭サナック(株)
9月 25 日(水)	3次元 CAD 概論 設計ツールとしての3次元 CAD	ポリテクカレッジ浜松

	活用法	
10月2日(水)	ソリッドモデリングの手法 CAE解析を活用した設計検討と検証	ポリテクカレッジ浜松
10月9日(水)	3Dプリンターによるモデルの製作まとめ	ポリテクカレッジ浜松
10月18日(金)	リバースエンジニアリングの重要性 ものづくりと知財	(株)アルモニコス 営業統括執行役員 中村 良彦 氏 (公財)浜松地域イノベーション推進機構 知財CD 石井 勉氏
10月22日(火)	CAD/CAMシステム適用の歴史と最新技術動向について	天方産業(株) デジタルプロセス(株)
10月28日(月)	生産加工 CAE (基礎) HDMの紹介 ※静大HDM使用教室・システムの紹介含む。 CAE 解析の紹介 (ダイカスト、樹脂、板材成形、鍛造)	静岡大学 工学部 准教授 早川 邦夫 氏 (株)CFD研究所 (株)計算力学研究センター 日本イーエスアイ(株) (株)ヤマナカゴーキン
11月15日(金)	修了式	

【フォローアップ講座】

開催日	内 容	講 師
12月5日(木)	新日鐵住金(株)名古屋製鐵所視察	—
12月12日(木)	溶接現場実習 (会場:岡本プレス工業(株))	岡本プレス工業(株) 安間 久雄 氏
1月16日(木)	トヨタ自動車(株)本社工場視察	—
2月5日(水)	「工場長の心得」	関ものづくり研究所 関 伸一 氏
2月25日(火)	(株)イナテック視察	
2月26日(水) 3月5日(水)	実践的 PLC セミナー	ポリテクカレッジ浜松

(3)はままつデジタル・マイスター(HDM)養成講座

【目的】

- ・最新デジタル技術(3D-CAD/CAM/CAE/CAT)を活用して、企画・開発・設計から製造技術までを一貫して構築できる、ものづくりの統合的能力を持つ「はままつデジタル・マイスター(HDM)」の養成。
- ・最新デジタル技術と加工法を駆使して、“21世紀型の擦り合せて作り込む”ものづくり能力を持つHDMの養成。
- ・板材成形、鍛造の各加工要素技術の基礎・応用技術、機械加工、溶接技術、3D-CAD技術、金型設計技術、成形シミュレーション技術を習得する。

- ・ものづくり MOT コースでは、技術経営的視点とその能力を統合的に養成する。

【実施内容】

開催日：平成 25 年 4 月 24 日（水）～ 平成 26 年 2 月 1 日（土）

会 場：静岡大学工学部

受講人員： 鍛造コース 4 名（4 社） ※募集定員は各コース 7 名

板材成形コース 3 名（3 社）

【成果指標】

項目	実績		目標
	平成 24 年度	平成 25 年度	
受講者数	11 名	7 名	25 年度終了

【総括】

平成 24 年度には、受講者からディスカッションの時間を設けてほしい旨の要望があり、平成 25 年度については一部について反映をした。しかしながら、本事業の実施から 3 年が経過し、本地域でも一定数の受講者も創出できたことから、専門的な講座内容は静岡大学にて実施いただく。

平成 26 年度からは、デジタル技術（CATIA V5 SolidWorks）を駆使し、ものづくりを統合的に解析する基礎知識習得を目的とした事業に、リニューアルする。（新技術開発 G：金原督和）

【講座内容：鍛造・板材成形共通コース】

開講日	内 容	講 師
4 月 24 日（水）	開講式・24 年度受講生事例発表	
	HDM養成の必要性	静岡大学 中村 保氏
4 月 26 日（金）	デジタルプロセスの活用 応用 I	㈱ユニバанс 小山 祥一氏
	デジタルプロセスの活用 応用 II	シマノ 白井 理浩氏
5 月 10 日（金） 5 月 11 日（土）	3D-CAD演習基礎 I 3D-CAD演習基礎 II	静岡大学 准教授 早川 邦夫氏
5 月 22 日（水）	製品開発設計の考え方	スズキ㈱デジタル技術部 CAD 推進課 課長代理 西澤 俊彦氏
6 月 19 日（水）	3D-CADの基礎・応用	静岡大学 教授 三浦 憲二郎氏
6 月 21 日（金）	3D-CADとともにづくり の進化	静岡文化芸術大学 教授 望月 達也 氏
6 月 26 日（水）	塑性力学の基礎 I	静岡大学 研究員 久保田 義弘 氏
7 月 10 日（水）	ものづくりMOT の必要性	ベンチャーポ 東海支社 中村 穣治 氏
	ものづくり戦略	㈱ユニバанс 新事業 P J リーダー 鈴木 正 氏
7 月 12 日（金）	プレゼンテーション技法	静岡大学 教授 鈴木 康之 氏
	技術経営戦略	静岡大学 教授 鈴木 康之 氏

7月 17日 (金)	ものづくりと知財	浜松地域イバーション推進機構 知財コーディネーター 石井 勉
------------	----------	-----------------------------------

【講座内容：鍛造コース】

開講日	内 容	講 師
6月 28日 (金)	鍛造の基礎と応用	浜松工業技術支援センター 光科 上席研究員 鷺坂 芳弘 氏
6月 29日 (土)	鍛造金型の設計演習	静岡大学 准教授 早川 邦夫 氏
7月 27日 (土)	鍛造シミュレーション演習 (DEFORM)	静岡大学 准教授 早川 邦夫 氏
8月 2日 (金)	板鍛造シミュレーション演習 (simufact)	静岡大学 准教授 早川 邦夫 氏
8月 7日 (水)	弾塑性有限要素法の基礎	静岡大学 准教授 早川 邦夫 氏
8月 23日 (金)	部品強度解析演習	静岡大学 准教授 早川 邦夫 氏
8月 28日 (水)	塑性力学の基礎II	静岡大学 准教授 早川 邦夫 氏
8月 30日 (金)	塑性力学の基礎III	静岡大学 准教授 早川 邦夫 氏
9月 4日 (水)	3D-CAT演習I (range 7)	静岡大学 研究員 久保田 義弘 氏
9月 6日 (金)	3D-CAT演習II (sp シリーズ)	静岡大学 研究員 久保田 義弘 氏
9月 28日 (土)	3D-CAT演習III (Space/E シリーズ)	静岡大学 研究員 久保田 義弘 氏
10月 2日 (水)	機械加工の基礎	静岡理工科大学教授 鈴木 康夫 氏
10月 4日 (金)	機械加工の応用	静岡理工科大学教授 鈴木 康夫 氏
10月 9日 (水)	鍛造用材料	松菱金属工業株 部品技術部長 戸田 正弘 氏
10月 11日 (金)	鍛造用金型材料 I	日立金属工具鋼株 主幹技師 浜小路 正博 氏
	鍛造用金型材料 II	ダ・ジエット工業株 課長代理 河原 淳二 氏
10月 19日 (土)	中間評価	企画評価委員
12月 19日 (木)	修了認定課題中間発表	企画評価委員
2月 1日 (土)	修了認定課題発表会	企画評価委員

【講座内容：板材成形コース】

開講日	内 容	講 師
6月 28日 (金)	板材成形の基礎	静岡大学 研究員 久保田 義弘 氏
7月 3日 (水)	板材成形の応用	静岡大学 准教授 早川 邦夫 氏
7月 5日 (金)	板材成形金型の設計	(株)オーミ 大平 守一 氏
7月 6日 (土)	板材成形金型の設計演習	静岡大学 准教授 早川 邦夫 氏
7月 19日 (金)	板材成形シミュレーション I (PAM-STAMP)	静岡大学 准教授 早川 邦夫 氏
7月 20日 (土)	板材成形シミュレーション	静岡大学 准教授 早川 邦夫 氏

Ⅱ (PAM-STAMP)		
8月7日 (水)	弾塑性有限要素法の基礎	静岡大学 准教授 早川 邦夫 氏
8月9日 (金)	板鍛造シミュレーション演習 (simufact)	静岡大学 准教授 早川 邦夫 氏
8月24日 (土)	部品強度解析シミュレーション	静岡大学 准教授 早川 邦夫 氏
8月28日 (水)	塑性力学の基礎Ⅱ	静岡大学 准教授 早川 邦夫 氏
8月30日 (金)	塑性力学の基礎Ⅲ	静岡大学 准教授 早川 邦夫 氏
9月11日 (水)	3D-CAT演習Ⅰ (ViViD-9i)	静岡大学 研究員 久保田 義弘 氏
9月13日 (金)	3D-CAT演習Ⅱ (spシリーズ)	静岡大学 研究員 久保田 義弘 氏
9月28日 (土)	3D-CAT演習Ⅲ (Space/Eシリーズ)	静岡大学 研究員 久保田 義弘 氏
10月2日 (水)	機械加工の基礎	静岡理工科大学教授 鈴木 康夫 氏
10月4日 (金)	機械加工の応用	静岡理工科大学教授 鈴木 康夫 氏
10月9日 (水)	溶接の基礎	静岡大学 准教授 酒井 克彦 氏
10月11日 (金)	溶接の応用	静岡大学 准教授 酒井 克彦 氏
10月19日 (土)	中間評価	企画評価委員
12月19日 (木)	修了認定課題中間発表	企画評価委員
2月1日 (土)	修了認定課題発表会	企画評価委員

(4) パワーエレクトロニクス技術講座（基礎）

【目的】

ハイブリッド車、電気自動車、燃料電池車など、次世代自動車の普及に伴い、車の電気化・知能化が急速に進んでおり、大電流を使用するパワーエレクトロニクス技術（パワエレ技術）が非常に重要となっている。さらに自動車だけでなく、ロボット産業も含めたTier1、2クラスの事業を担うことのできる技術者育成のため、国内の第一人者を講師に迎え、本講座を実施する。

【実施内容】

開催日：平成25年11月1日（金）～平成25年12月4日（水）（6日間）

会場：イノベーション機構8階セミナー室、ポリテクカレッジ浜松

受講人員：19名（12社）※募集定員は10名～20名

【成果指標】

項目	実績		目標
	平成24年度	平成25年度	
①パワーエレクトロニクス技術講座（基礎）満足度	参加：17名 満足度：84% (目標80%)	参加：19名 満足度：96% (目標80%)	参加：15名 (目標85%)

【総括】

平成24年度実施の座学のみの講座に加えて、平成25年度は現場重視の実習を加えた。すなわち、パワエレ技術の基礎講座を静岡理工科大の講師を中心に座学形式に加え、ポリテクカレッジにおける実習の2本立てで実施した。これによって輸送用機器（特にハイブリッド車など）で用いられるモータ技術について、その周辺の電子回路

(ロジック回路) や電気回路、制御ソフトウェアなど、基礎知識を習得することができた。特に、実習形式の講座を実施することにより、職場ですぐに活用、試行できる非常に役に立つ講座を実施することができた。この結果、満足度で 96% (全日間講座平均値) を達成した。今後は好評を得た職場密着型の案件を充実させるのと同時に、アンケートとヒアリングのフィードバックを実施し、企業に役立つ講座内容を提供し上記目標値をクリアする。(新技術開発G : 塚本研一)

【講座内容】

日 時	内 容	講 師
11月1日(金)	パワーエレクトロニクス概要	東京工業大学 名誉教授 深尾 正氏
	パワーエレクトロニクスのための電気工学の基礎	東京工業大学 名誉教授 深尾 正氏
	パワーデバイスの概要	静岡大学 教授 野口 季彦氏
11月8日(金)	電力変換回路と電力変換システム	静岡大学 教授 野口 季彦氏
	パワーエレクトロニクスのための電子回路	静岡理工科大学 山本 健司氏
11月15日(金)	各種モータと駆動方法 I	静岡理工科大学 講師 服部 知美氏
	各種モータと駆動方法 II	静岡理工科大学 講師 服部 知美氏
11月20日(水)	パワーエレクトロニクス用センサの原理と利用法	電気学会IEEJ プロフェッショナル 渡邊 利彦氏
	制御用ソフトウェアの構造とプログラムの作成法	静岡理工科大学 教授 高橋 久氏
11月27日(水)	電気・電子計測実習	ポリテクカレッジ浜松 志村 博隆氏
12月4日(水)	モータの制御実習	ポリテクカレッジ浜松 川俣 文昭氏

(5) 技術経営講座

【目的】

浜松地域のものづくり産業において、企業経営を担う技術者に対し、技術を戦略的にマネジメントする能力の更なる向上を目的として講座を開催した。リスクマネジメントは全企業対象、マーケティング及びデザインマネジメントは自社製品を計画している企業を対象とした。

【実施内容】

講座名：「リスクマネジメント（経営とリスクマネジメント／製造業における危機管理（BCP・防災）の捉え方／製品安全のためのリスクアセスメント）」
「マーケティング」
「デザインマネジメント」

開催日：平成25年8月～平成25年12月

会 場：浜松商工会議所、浜松労政会館、イノベーション推進機構セミナー室
受講人員：リスクマネジメント 21名 ※募集定員は各講座 20 名
マーケティング 13名
デザインマネジメント 11名

MOT（技術経営）講演会

開催日：平成 26 年 2 月 26 日(木)

会場：オークラアクトシティホテル浜松

講演：「中小企業の実践MOTの活用の基礎と応用」

「MOT：技術を核とした新規事業創造～0から1を立ち上げるには～」

「グローバル競争に勝つ日本のものづくりと技術経営」

受講人員：85 名

【成果指標】

項目	実績		目標
	平成 24 年度	平成 25 年度	
①受講者数	平均 22 名	平均 14 名	各 10 名以上
②受講満足度	90%	90%	90%以上

【総括】

平成 25 年度は、平成 24 年度の科目を基本的に踏襲したが、品質工学は 2 年継続したので平成 25 年度は実施を見送った。平成 25 年度の講座内容を見て、中小企業向けにより適切と思われるよう講師を一部変更した。事前に講座を聞いて選定していくため、今後も講座によっては講師の見直しが必要である。

平成 25 年度は受講者数が減少し、地域企業のMOTに対する認知度が不十分であると推察する。そのために啓蒙活動として 2 月にMOT 講演会を開催し、国内有数の講師を呼んでMOT そのものの講演を行った。多くの受講者が集まり、認識向上に繋がった。

平成 25 年度開講講座の内、リスクマネジメントは 2 年継続しており、平成 26 年度は、MOT 講演会で評判の高かった講師によるMOT の必要性の講座に変更し、経営者を対象として開講予定である。（新技術開発G：前川昭二）

【講座内容】

開催日	内 容	講 師
8 月 30 日 (金)	◆経営とリスクマネジメント 経営環境を取り巻く危機の分析 リスクの内部要因と外部要因分析 市場の変化について 経営を取り巻く国際経済・貿易・社会環境変化の影響 事前の脅威と経営への影響分析 他	浜松地域イノベーション推進機構 理事長 津田 紘
9 月 4 日 (水) 9 月 11 日 (水)	◆製造業における危機管理 (BCP・防災) の捉え方 事業継続計画 (BCP) の理解と策定体験 事業継続計画 (BCP) 概説 BCP策定のポイント解説と演習 サプライチェーンと BCP	e-経営推進室 代表 宮角 良介 氏

9月2日（月） 9月9日（月）	◆製品安全のためのリスクアセスメント 製品安全とリスクアセスメントについて 信頼性解析手法について FMEA(Failure Mode and Effects Analysis) の概要・演習 安全性解析手法について FTA(Fault Tree Analysis) の概要・演習	公立大学法人首都大学東京 産業技術大学院大学 産業技術研究科 准教授 越水 重臣 氏
10月21日（月） 10月28日（月）	◆マーケティング 中小企業のマーケティングを学ぶ マーケティング的発想方法とは何か 小が大を超えるマーケティングの法則 ブランドの力 小さな会社を強くするブランドづくり	静岡県立大学 経営情報学部 教授 岩崎 邦彦 氏
12月2日（月） 12月9日（月）	◆デザインマネジメント デザインの力 その気にさせるデザイン デザインというコミュニケーション デザインを産み出す仕組み	静岡文化芸術大学 デザイン学部生産造形学科 教授 峯 郁郎 氏

(6)起業家精神・ものづくり精神啓発事業

【目的】

浜松は、「やらまいか」をキーワードに、古くからものづくりのまちとして発展してきた。世界的企業がこの地から次々に生まれ、今日までものづくり・起業のDNAが脈々と受け継がれてきた。このものづくり・起業の精神を後世につなげるため、小中校生を対象に次世代人材育成として、起業家精神・ものづくり精神啓発事業を実施する。

【実施内容】

- ・事業実施校 43校（小学校32校、中学校10校、高等学校1校）
- ・実施回数 44回
- ・受講生徒数 5,232人
- ・登録講師 40名

【成果指標】

項目	実績		目標
	平成24年度	平成25年度	
①実施校	47	43	—
②受講生徒数	5,643	5,232	—

【総括】

実施校アンケートによると、「希望する又は期待する内容だったか？」という問いに「非常にそう思う 73.8%」「概ねそう思う 26.2%」という結果で、「そう思わない」という意見は1校も無く、「子どもたちにとって大変有意義な時間となった」という

意見が多いなど、学校側の評価は非常に高い。

平成 26 年度からは、浜松での起業の促進に一層重点を置き、市内の小中学生、高校生に起業を身近に感じてもらい、在学中から起業への関心や興味を促すことにより、次世代の起業家や産業人材を育成することを目的とする「次世代起業家育成事業（浜松市実施）」へと変更する。（新技術開発G：金原督和）

【講師名簿 敬称略】（平成 25 年 3 月時点）

NO	社 名	役 職	氏 名
1	株スペースクリエイション	代表取締役	青木 邦章
2	税理士法人 坂本&パートナー	理事長	坂本 孝司
3	アグ意匠設計	代表	鈴木 敬
4	有)豊岡クラフト	代表取締役会長	山崎 肇
5	株プラス電機	代表取締役社長	上滝 憲夫
6	有)エムシー綜合能力開発	代表取締役	石野 真己
7	浜松総務部有)	代表取締役	木村 玲美
8	株ミズ. クリエイション	取締役会長	佐藤 和枝
9	株メディアトーク	代表取締役社長	近藤 元子
10	株はあもにい	代表取締役	大野 晴己
11	上島動物病院	理事長、獣医師	小杉 浩造
12	株C A I メディア	代表取締役社長	福地 三則
13	加藤特許商標事務所	弁理士、行政書士、ものづくりコンサルタント	加藤 道幸
14	株エクスポートサービス	代表取締役、行政書士	佐藤 晴彦
15	社会保険労務士法人ローム	理事長、社会保険労務士	牧野 剛
16	公認会計士浜松国際共同事務所	会計事務所長	松島 知次
17	有)チップス	取締役	森 知之
18	株ビジネス・サポートコーポレーション	代表取締役	戸塚 友康
19	アラン建築設計事務所	代表取締役	中根 康晴
20	コーズデザイン	代 表	神津 宏昭
21	(一社) ぽっぷちやいるど	理事長	水野 久美子
22	ドコス株	代表取締役	大河内 慶吉
23	サゴーエンタプライズ株	代表取締役社長	小野 晃司
24	浜松帝国警備保障株	取締役副社長	堀内 善弘
25	臨済宗方広寺派 藏泉院	住 職	高井 昭恭
26	臨済宗方広寺派 祥光寺	住 職	向 令孝
27	株石津デザインスタジオ	代表取締役	石津 公稔
28	株アイエイチエス	代表取締役	木下 英洋
29	株アイジーコンサルティング	常務取締役	佐藤 吉文
30	【元】株本田技術研究所	上席研究員	山中 勲
31	ウーシャ・イングリッシュ・ハウス	代 表	ウーシャ・ラシダ
32	有)春華堂	取締役副社長	山崎 貴裕
33	株TRINC	代表取締役社長	高柳 真
34	西尾精密株	相談役	西尾 真之

35	古橋織布(有)	代表取締役	古橋 敏明
36	(株)増田酸素工業所	代表取締役社長	増田 久雄
37	(株)愛染倉		伊藤 茜
38	(株)形線	代表取締役	西尾 文克
39	永田木材(株)	営業	永田 琢也
40	峯野牧場		峯野 忍

(7) 浜松マイスター推進事業

【目的】

浜松市より認定を受けた「浜松ものづくりマイスター」の活動推進を通じて、技能・技術の維持継承と、次世代のものづくり産業を担う人材の確保・育成を図る。

【実施内容】

平成 25 年度は、新たに次の 2 名が認定され、マイスターの合計は 12 名。

- ・浅沼 進 氏 (株)浅沼技研 代表取締役社長)
- ・小原敏夫 氏 (株)ピアックス 代表取締役)

【成果指標】

項目	実績		目標
	平成 24 年度	平成 25 年度	
①インターンシップ参加者数	—	24 名	15 名
②インターンシップ満足度	—	80%	90%

【総括】

産業人材の育成を図るために、より実践的な形でマイスターの技能・技術を学ぶことを目的に、平成 25 年度はインターンシップを実施し高評価を得た。

今後のマイスター認定に当たっては、地域企業による活用を見据えたニーズの高い分野を中心に認定していく必要がある。また、企業によるマイスターの活用に向け、認定されたマイスターの周知・PR活動の更なる強化が求められる。(新技術開発G : 金原督和)

【活動実績】

開催日・場所	内 容	講 師
6月 27 日(木) 6月 28 日(金) 西尾精密(株)	製造中核人材育成講座での講義 「鍛造(応用)」	西尾精密(株) 相談役 西尾眞之 氏
6月 27 日(木) 元城小学校	起業家精神啓発事業での講義 「木工製品の製作」	(有)豊岡クラフト 代表取締役会長 山崎 肇 氏
7月 22 日(月) 浜松商工会議所	浜松ものづくりマイスター講演会	(株)ポリシス 代表取締役 毛利俊甫 氏
8月 2 日(金) 浜松工業技術 支援センター	センターフェア 2013 (ブース展示)	(株)ポリシス 代表取締役 毛利俊甫 氏
9月 3 日(火) 西テクノ工場	製造中核人材育成講座での講義 「鍛金・表面処理(基礎・応用)」	神谷理研(株) 代表取締役専務 神谷武彦 氏

10月22日(火) 10月23日(水) 浜松技術専門校	第1回 TIG溶接入門	(株)増田酸素工業所 代表取締役 増田久雄 氏
10月29日(火) ～10月31日(木) 浜松技術専門校	第1回 チタン溶接入門	(株)増田酸素工業所 代表取締役 増田久雄 氏
1月28日(火) 1月29日(水) 浜松技術専門校	第2回 TIG溶接入門	(株)増田酸素工業所 代表取締役 増田久雄 氏
2月4日(火)～ 2月6日(木) 浜松技術専門校	第2回 チタン溶接入門	(株)増田酸素工業所 代表取締役 増田久雄 氏
2月17日(月) 神谷理研(株) 西テクノ工場	インターンシップ 「表面処理講座・実習」	神谷理研(株) 代表取締役専務 神谷武彦 氏
2月19日(水) 2月20日(木) 西尾精密(株)	インターンシップ 「金型製作実演・実習」	西尾精密(株) 相談役 西尾眞之 氏
3月12日(水) ポリテクカレッジ浜松	インターンシップ 「機械加工講座・実習」	スズキ(株) 試作部試作技術課 神谷重久 氏

2 知財活用推進事業

決算額 1,437 千円（予算額 1,800 千円）

(1) 知財に関する相談事業

【目的】

中小企業や個人が抱える知的財産に関する様々な課題、悩みを解決する。

【実施内容】

当機構の知財コーディネーターと知財総合窓口支援担当（特許庁事業）とが連携して、中小企業や個人からの相談に応じた。

平成25年4月～平成26年3月までの相談対応件数は671件

（内 企業訪問 99件 [内 知財総合窓口支援専門家派遣利用 48件]）

【成果指標】

項目	実績		目標
	平成24年度	平成25年度	
①相談対応件数	456件	671件	590件
②企業訪問件数	76件	99件	90件
③専門家派遣件数	29件	48件	40件

※平成26年度の目標件数は、特許庁が設定した知財総合窓口支援事業の目標件数と合わせた。

【総括】

平成25年度の目標件数490件に対して137%の達成率であり、個人からの相談を含めて件数が大幅に増えた。これは地域企業での知財の重要性についての認識が深まったのと、知財関係の問題が増えてきているためと考えられる。支援の質の面でも向上当機構の技術コーディネーター、経営コーディネーターを通じての知財支援の要請

案件も増えつつある。重要案件については、企業訪問や弁理士等の専門家派遣制度を利用し、更には当機構の技術コーディネーター、経営コーディネーターと連携することで、相談内容を経営・事業課題にまで掘り下げるアドバイスするようにした。その結果、質の面で適切な支援ができたものと考える。

課題としては、相談のない中小企業にあっても潜在的に知財問題が存在する場合もあると考えられるので、知財に関する意識・知識のない中小企業の掘り起こしを行っていくことも重要である。そのために、当機構の技術コーディネーターや経営コーディネーターとの更なる連携強化及び地域の金融機関や商工会議所などとの連携を深めていく。

なお、相談対応件数は本事業の評価として必要なものであるが、件数だけではなく、相談対応・支援の質、特に中小企業、個人事業主に対する支援内容を更に充実させることが重要であるとの認識を新たにし、その方向で取り組んでいく。(事業化推進G：米谷俊一)

(2) 知財講演会、講習会開催事業

【目的】

知財に関する法制度の理解及び企業活動における知財活用の啓蒙・啓発を図る。

【実施内容】

講演会：意匠制度活用、海外知財戦略をテーマに以下の2回の講演会を開催

計83名参加

開催日	内 容	講 師
6月12日(水)	自社製品を模倣から守るために！ ～意匠制度の上手な活用法～ ＊はままつ知財研究会との共催	弁理士 大畠敏郎 氏
2月13日(木)	東南アジアの知的財産権制度の現状と展望～東南アジアの知財状況を知って知財トラブル、知財リスクを低減しよう～ ＊はままつ知財研究会との共催	ジェトロバンコク事務所 知財部長 大熊靖夫 氏

講習会：

①初心者向け「知財基礎講習会」として、企業の新任知財担当者や技術者を対象に、以下の内容（全5回のコース）で実施 13名参加

回	日時	内 容
第1回	平成25年 7月26日(金) 13:30～16:30	(1)知的財産権制度の概要 i) 知的財産／知的財産権とは！ ii) 知的財産権に関する係争事例 (2)特許制度と特許法の概要 i) 特許制度の目的 ii) 日本/世界の出願・登録件数の状況 iii) 特許出願～権利化の流れ(特許要件等)
第2回	8月30日(金) 13:30～16:30	(3)特許権の権利範囲と権利解釈（演習グループ討議） (4)特許権の利用関係 (5)特許権の事例

第3回	10月22日(火) 13:30~16:30	(6)意匠制度、商標制度の概要 (7)特許情報調査と特許情報の活用 (IPDLによる検索実習)
第4回	12月13日(金) 13:30~16:30	(8)企業活動(研究開発活動)と知的財産権について i) 研究開発成果の特許出願 ・発明ポイントの抽出、本質把握 (演習グループ討議) ii) ノウハウの扱い iii) 他社権利対策・自社権利行使 iii) 知財活動と知財(特許)戦略
第5回	平成26年 2月21日(金) 13:30~16:30	○第4回の宿題レポート(発明ポイント抽出・整理)のグループ討議・発表、解説 (9)不正競争防止法 (10)知的財産関連契約 i) ライセンス契約 ii) 秘密保持契約、共同開発契約など (11)質疑応答、まとめ

- ②「海外特許情報等検索講習会」として、海外特許情報等検索データベースを使って検索実習を実施 19名参加
 ③当機構・城北図書館主催ビジネス支援講座のなかで、「知的財産を理解して起業に役立てよう」の知財講習を実施 12/7 25名参加
 ④中小企業に出向いての知財講習を実施 12/4 12名参加

【成果指標】

項目	実績		目標
	平成24年度	平成25年度	
①開催回数	8回	10回	10回
②参加者満足度	—	88%	90%

【総括】

地域企業の知財の活用、知財に関わる人材の育成のために、地域企業の要望を踏まえて上記のテーマにて講演会、講習会を開催した。参加者のアンケート結果によると、各講演会、各講習会によって異なるものの「有意義であった」との意見が全体平均で88%という評価を受けた。

また、平成24年度の課題として取上げた“中小企業の知財に関する基礎知識の不足”を受け、新たに「初心者向け知財基礎講習会」を開催したところ好評であった。平成26年度以降も引き続き開催する。

課題としては、中小企業の経営者に対する知財啓発のための講演会等の開催が重要と考えているが、経営者に参加してもらうための工夫が必要となる。このために、当機構の新技術開発グループと連携し、知財テーマ単独の講演会ではなく、“ものづくり、技術開発”などのテーマとセットで開催することを検討する。（事業化推進G：米谷俊一）

(3) 特許等出願支援補助金事業

【目的】

中小企業の特許等の知的財産権制度を利用し易くし、知的財産権を活用した事業展開を支援する。

【実施内容】

2回の公募で、補助金申請が計8件あり、うち7件（特許出願6件、意匠出願1件）を採択した（予算100万円、補助金交付額85.1万円）。

【成果指標】

項目	実績		目標
	平成24年度	平成25年度	
①申請件数	—	8件	10件
②採択件数	—	7件	7件

【総括】

本事業については、平成25年度から新たに実施した事業であるが、採択した企業も含めて浜松市の中小企業から、出願しやすくなったと評価を得ている。

課題としては、本事業の存在がまだ十分知られていないため、周知を図る。また、単に出願費用を補助するだけではなく、出願後の権利化及びその活用、出願発明の事業化等について、フォローするとともに必要な支援を行う。（事業化推進G：米谷俊一）

(4) 「はままつ知財研究会」との連携（同研究会の事務局事業）

【目的】

「はままつ知財研究会」と連携して、地域企業の知財活動の向上を図るとともに、知財に関わる人材の育成を行う。

【実施内容】

「はままつ知財研究会」の中心的活動である知財問題研究部会を6回開催し、会員企業が抱えている知財に関する悩みや最近の話題をテーマに取り上げ、講師及び参加者による研究、ディスカッションを実施した。計173名参加。

【総括】

会員企業の知財担当者が幹事、委員として自ら企画、運営していることにより、会員にとって有益な活動ができた。部会参加者からは「有意義であった」との意見が全体平均で98%という高い評価を受けた。また、部会活動を通じて大企業、中堅企業、中小企業の知財担当者及び弁理士の交流が図られた。

課題としては、同研究会と当機構の知財活用推進事業は最終的には共通するところを目指しているが、活動の対象者が異なる（同研究会は会員を対象、当機構は地域全体の企業、個人を対象）。このため、同研究会の自主性を尊重しつつ当機構との連携を取る必要があり、同研究会の幹事、委員との協議を通じて両者の事業、活動の位置づけを整理し、推進していく。（事業化推進G：米谷俊一）

(5) 特許流通支援事業

【目的】

中小企業等における保有特許権の外部活用（ライセンス・アウト）及び研究開発での外部特許権の活用（ライセンス・イン）を支援する。

【実施内容】

平成25年度は3件のライセンス・アウトに関する相談があり、静岡県特許流通アドバイザーに協力を要請した結果、うち1件が現在進行中である。2件は発明内容、権利内容等の問題で、進展しなかった。

【成果指標】

項目	実績		目標
	平成 24 年度	平成 25 年度	
特許流通支援件数	—	3 件	5 件

【総括】

当機構では特許流通に関する経験が少なく、また十分な時間が取れないため、他機関との連携が必要となる。このため、静岡県の特許流通アドバイザーと連携してながらノウハウを学んでいる。

課題としては、特許ライセンスする相手が中小企業の場合、特許ライセンスだけでは事業化は難しく、ものづくりのための技術的支援、事業化のための販路開拓支援及びそれらのための金銭的支援などの総合的支援が重要となる。国や県の動向を見ながら、必要に応じて連携する。（事業化推進G：米谷俊一）

3 浜松起業プロデュース事業

決算額 586 千円（予算額 2,000 千円）

【目的】

浜松市が戦略的に支援する成長 6 分野（次世代輸送用機器、健康・医療、新農業、光・電子、環境・エネルギー、デジタルネットワーク・コンテンツ）に関して、新規事業の提案を持つ浜松市内の中小企業や個人を支援・育成する。また、自社のみでなく地域企業が集団として連携して発展させることにより、地域経済の活性化・多様化・構造転換を図る。

【実施内容】**(1) はままつ新規事業プロデュース**

成長 6 分野において、事業化の可能性が高く、将来に広がりが期待できる新規事業で、かつ自社のみでなく地域企業が集団として発展させることができる事業を公募し、書類審査、ヒアリングを経て 5 件を採択した。テーマごとに財団のコーディネーターを専任コーディネーターとして配置し、必要に応じて無料で外部専門家を派遣した。

《採択企業》

- 1 株式会社シーポイント「成長市場・新産業との人材マッチング事業」
- 2 株式会社ホト・アグリ「《浜松プレミアム：自然の力の利用と新発想の農作物育成》地域の宝である子育てママの活躍する場の提供と健康増進のための新栽培法及び新種発掘」
- 3 株式会社池戸溶接製作所「浜松プレミアム：営農に貢献できるマイクロモビリティの供給と非常時のための蓄電池の循環利用」
- 4 オーエフシステム株式会社「浜松プレミアム：「廃校グランドの太陽光発電による、野菜工場への電力供給事業」」
- 5 有限会社竹村園芸「木質チップ発酵装置を活用した家庭菜園・家庭用ごみ処理キット」

【成果指標】

項目	実績		目標
	平成 24 年度	平成 25 年度	
サポート企業	—	5 社	6 社

【総括】

年度当初は、起業や第二創業を目指す人材の発掘及びベンチャーの新しい育成方法の実践を目指したが、公募に際して新規事業展開の支援に重点化した。計画の立案に

時間を要し、実際の支援活動に十分な時間がとれなかつた。また、公募の主旨を徹底させることができず、採択テーマの中に、速やかな支援が難しいものがあつた。新規事業展開を促進するために、どんな支援が求められているかを再考し、他の技術開発支援事業や補助金事業との整合を図ることが必要と思われる。（事業化推進G：米谷俊一）

(2) 起業に伴う個別相談・販路開拓支援

【目的】

起業相談や既存企業の経営改善・販路開拓等の経営課題を、経営コーディネーターが課題解決を図るためのアドバイスを行う。

【実施内容】

浜松市立城北図書館にて起業支援のための定例相談会を実施した。

開催回数：12回（毎月1回、第3水曜日）

【成果指標】

項目	実績		目標
	平成24年度	平成25年度	
①相談案件総数	39件	29件	30件
②月平均相談人数	3.3名	2.4名	2.5名
③起業相談	20件	8件	10件
起業した数	3件	1件	—
継続支援	6件	3件	—
④販路開拓相談	9件	5件	15件
⑤経営相談	9件	15件	5件
⑥知財相談	1件	1件	—
継続支援（④～⑥）	3件	3件	—

【総括】

平成25年度の相談実績は対前年比で10件減少。相談件数29件（そのうち継続している案件は20件）の相談内容は、売上増加策等の経営相談と起業に係る相談がおよそ半々だった。減少した要因としては周知不足などが考えられるが、事業内容からも現状の相談人数での対応が中身の濃いサポートに繋がっているとも考えられる。但し、平成26年度以降の周知対策として、浜松市（産業部、城北図書館）とも連携し、ホームページなどを通じて定期的に発信していく。

今後も相談者のニーズをしっかりと把握するとともに、相談内容を起業家交流サロン事業や専門家派遣制度等とも連動させて、様々な角度から相談者を支援できるよう、起業・創業支援等の個別相談業務として定期開催をしていく。（市場・販路開拓G：馬場）

(3) 城北図書館起業家交流サロン事業

【目的】

新規創業者及び創業予定者向けに、創業支援・啓発セミナーを開催することで、創業意識の醸成を図る。

【実施内容】

年間3回を目安として、創業者向け支援セミナーを開催する。

会場：浜松市立城北図書館

【講座内容】

開催日	内 容	講 師
7月20日(土)	「企業家としての旅に出るための準備をしよう」	システムコラボ・マネジメント 副理事長 中山司 氏
8月24日(土)	「ITを利用した企業経営趣味レーション」	システムコラボ・マネジメント 教授 田中宏和 氏
12月7日(土)	「知的財産を理解して起業に役立てよう」	浜松地域イノベーション推進機構 知財コーディネーター 石井勉

【成果指標】

項目	実績		目標
	平成24年度	平成25年度	
①セミナー開催数	2回	3回	3回
②参加人数	50名	98名	110名

【総括】

平成25年度は、第1回・第2回セミナーを参加型、第3回セミナーを聴講型として開催した。セミナーの回数を前年度より1回増やしたことにより、参加人数も98名と大幅に増えた。参加型セミナーの際には、参加者がグループディスカッション等で自分の意見を発する「場」があることにより、創業意識が高められたとの意見が出た。また、当日の参加者からは多くの事業計画立案の相談や、次回の相談会・セミナーにも積極的に参加したいとの意向も見受けられた。

一方、実際の創業準備等の実務に踏み込んだ聴講型のセミナーを望む意見もあり、今後も参加型と聴講型を組み合わせ、創業意識の向上と具体的な創業支援に繋がるセミナーを両立させていく。

本セミナーは、創業に対しての意識付けや予備知識を学ぶことで、その後の相談会へ結び付けていくことを目指している。その意味でも今年度のセミナー開催は成果を上げることができたといえる。平成26年度は、創業に関する講座をはじめ、成長6分野を中心に捉えた新規事業セミナーや女性の起業家に向けたセミナーなどを企画・実施し、女性創業者の支援にも力を入れていく。

また、開業率の向上に向け、浜松市が策定中の「創業支援事業計画」とも密接な連携を図っていく。(市場・販路開拓G:岩井敏雄)

4 半田山T B G活用運営事業

決算額3,997千円(予算額4,225千円)

【目的】

新事業創出や产学研連携を目指す企業の活動の場として、「半田山T B G(テクノビジネスゲート)」を提供し、事業を加速させるとともに、施設の有効活用に向けた抜本的な検討を行う。

【実施内容】

創業間もないベンチャー企業、产学研連携による研究開発により新技術・新製品の開発を目指す企業等を対象にインキュベート活動の場を提供する施設である。平成24年度以降、入居率が低下したことから、施設の有効活用に向けた基礎業務として、施設の不動産鑑定や今後の維持にかかるコストシミュレーションなどを実施した。

※T B G (Techno Business Gate)

旧財浜松地域テクノポリス推進機構が、経営基盤の脆弱な起業家に提供するため半田山事務所敷地内に整備したインキュベート施設で9室(最小35m²~最大

78.4 m²：全体で 522.8 m²）を有する。※9 室のうち 1 室はインキュベートルームとして複数企業の共同利用に供する。

平成 25 年度末	インキュベート施設入居企業	1 社	(1 社 H25.10 退去)
	インキュベートルーム入居企業	0 社	(2 社 H25.5 退去)
平成 24 年度末	インキュベート施設入居企業	2 社	(3 社 H24 年度中退去)
	インキュベートルーム入居企業	2 社	(2 社 H24 年度中退去)

【成果指標】

項目	実績		目標
	平成 24 年度	平成 25 年度	
活用方針の決定	—	—	10 月決定

【総括】

インキュベート施設の入居企業は、平成 25 年度中に 1 社（1 室）が退去し、残り 1 社となった。残り 1 社についても平成 26 年 4 月末をもって退去し、平成 26 年 5 月以降は入居企業不在の状況となり、活用方針を白紙の状態で検討できることとなる。

他産業支援機関が運営するインキュベート施設に目を向けると、浜松イノベーションキューブ（Hi-Cube）やテクノフロンティア浜松でも入居者を募集している状況であり、浜松地域においては充足感がある。

こうしたことから、平成 26 年度は売却や譲渡、解体を含めた今後のあり方について検討を行い、方針を決定する。（企画・広報 G：松下恵介）

5 地場産業振興事業

決算額 9,745 千円（予算額 9,704 千円）

【目的】

地元繊維業界が行う見本市への協力や、新商品・新技術開発、新たな販路の開拓等の取り組みについて支援し、当産地繊維製品の普及・拡大とイメージアップを図り活力強化と需要拡大を促進する。また、二輪車製造業の振興及びオートバイ文化の発信を目的とした「バイクのふるさと浜松」の事務局運営を行う。

【実施内容】

(1) 繊維製品の普及拡大

ア 2014 ハママツ・コレクション

①プレミアムテキスタイルジャパン（東京国際フォーラム）

開催日 平成 25 年 5 月 8 日（水）～9 日（木）2014 S/S 2 企業

平成 25 年 11 月 20 日（水）～21 日（木）2014 A/W 2 企業

（ジャパンクリエーション 2014 併催） 1 企業

②ギフトショー（東京ビッグサイト）

開催日 平成 25 年 9 月 4 日（水）～6 日（金）1 組合

平成 26 年 2 月 5 日（水）～7 日（金）1 組合 1 企業

内 容 プレミアムテキスタイルジャパンは、延べ 4 企業が出展、ギフトショーよは、延べ 1 企業・2 組合が出展し、テキスタイル及び二次製品を展示した。

2 展示会合計で 1,652 名のブース来場者と 1,282 件のサンプル依頼があり、一定の成果を上げることができ、浜松テキスタイルを国内外の繊維関係者に PR することができた。

イ 注染・ゆかた・和装展

開催日 平成 25 年 7 月 6 日（土）～7 日（日）
会 場 ギャラリーモールソラモ
来場者 1,700 名
内 容 注染・ゆかた・和装製品の展示・発表(53点)、浜松注染そめの実演・体験、浜松工業技術支援センター成果発表を実施し多くの来場者でにぎわい、広く市民にゆかたの魅力を感じてもらうことができた。
7月7、8日はソラモにてゆかた無料着付けを実施し、7月26日は、静岡県立浜松商業高校にて高校生ゆかた教室（34名参加）を実施した。

ウ 縿の産地フェア

開催日 平成 25 年 6 月 4 日(火)～6 日(木)、6 月 8 日(土)～9 日(日)
会 場 ツインメッセ静岡（シズオカ KAGU メッセ）
内 容 3 企業が出展し、加工開発したテキスタイル、墨染め、柿渋染め等のテキスタイルや半纏等製品を展示・商談し販路拡大を図った。

開催日 平成 25 年 11 月 3 日（日）
会 場 浜松市総合産業展示館第 3 展示場 1 組合 10 企業
来場者 950 名
内 容 当地域がファッショントキスタイルの重要な生産地であることを広く市民にアピールするとともに、販売を通じて地産地消を推進した。地域で生産される最新の繊維製品及び繊維生産技術の P R とアンケート調査を実施し、需要の拡大に努めた。また、工業技術支援センターの協力を得て手織り機や組紐機で布や紐を作る体験コーナーを設けた。

エ 産地 P R ブランド開発推進事業

開催日 平成 25 年 11 月 6 日（水）～8 日（金）
会 場 インテリア・ライフスタイル・リビング(東京ビッグサイト)
内 容 組合事務局、参加企業で構成する 9 企業による実行委員会を組織し開発した新製品を出展した。51 名のブース来場者と 6 件のサンプル依頼があり、アパレル企業以外との商談が成立した。

オ マーケティング強化支援事業

開催日 平成 25 年 9 月 26 日（木）～27 日（金）
会 場 こだわりの布展(ふくい南青山)
開催日 平成 25 年 11 月 7 日（火）～8 日（水）
会 場 TN 展(スタジアムプレイス青山)
内 容 企画・提案型の繊維素材開発に意欲の高い協会傘下の織布企業グループを新たに取りまとめ、新商品の情報発信に当たって、生産技術の優秀性、品質の高さを積極的に P R した。首都圏での展示・商談会では、開発したテキスタイルの品質及び二次製品の特徴、着用時の機能効果を積極的に P R した。242 名のブース来場者と 85 件のサンプル依頼があった。

カ 繊維産業ファッショング連携推進事業(遠州織物ファッショング新製品の開発事業)

協会傘下の 3 組合及び会員企業 11 社とコーディネーター等専門家によるワーキング部会を開催し、デザイナー等から最新情報を得ながら高付加価値テキ

スタイル、二次製品を開発した。専門家との5回の打ち合わせ、11社による3回のデザイナー工場訪問、3社による1回の若手デザイナーとの打合せを実施した。作成総点数は97点である。

キ 繊維産業ファッション連携推進事業(遠州織物ブランド発信事業)

開催日 平成26年2月20日(木)～21日(金)

会場 遠州織物コレクション(スタジアムプレイス青山)

内容 遠州産地の情報発信不足を解消するため、産地単独展である遠州織物コレクションを3組合11企業が、開発した新企画商品を展示し、産地イメージの向上、新規市場への開拓及び販路の拡大を図った。延べ519名の来場者と474件のサンプル依頼があった。また、前記新商品の提案をグループごとに情報共有しアパレル・デザイナー等に個別訪問し販路の拡大を図った。

ク 浜松シティファッショコンペ事業

開催日 平成25年12月8日(日)

会場 えんてつホール

内容 浜松地域の綿関連素材を用いた作品づくりを通じて、次代を担うクリエイターと繊維業界との有機的な関係を構築するとともに、綿織物産地「浜松」の情報を広く発信し繊維産業の振興を図った。地方のコンペでは最大のものであり、全国からデザイン画3,305点の応募が寄せられ、デザイナー等による第一次審査を通過したデザイン画30点が作品に仕上げられプロのモデルによるファッションショー形式で審査を行った。素材については、産地企業27社の協力があり綿素材の産地浜松をアピールした。

ケ 展示コーナー(産業展示館北館)の整備

繊維8組合の唯一の製品展示場所として浜松市総合産業展示館北館2階の常設展示コーナーに、繊維産業の振興・広報のため、平成25年度は遠州織物の歴史展示コーナー等の展示整備をした。

(2) 「バイクのふるさと浜松2013」実行委員会事務局運営事業

開催日 平成25年8月24日(土)～25日(日)

会場 浜松市総合産業展示館

来場者 22,500人

内容 バイクフォーラム、タッチ&トライ、最新モデルの展示、ものづくり企業展、バイク販売店コーナー、トライアルデモンストレーション等を実施した。

【成果指標】

項目	実績		目標
	平成24年度	平成25年度	
ハママツコレクション サンプル依頼	365件	1,282件	1,350件
マーケティング強化支援事業 サンプル依頼	97件	85件	90件
ブランド発信事業 サンプル依頼	479件	474件	500件
バイクのふるさと 来場者	21,000名	22,500名	23,700名

【総括】

地元の繊維業界が行う見本市への出展や各種の販路開拓等の取り組みについて、静

岡県、浜松市等と連携して支援を行い、浜松産の繊維製品の普及・拡大を図った。今年度はギフトショーをはじめとする様々な展示会への出展や、アパレル・デザイナーへの個別訪問などを実施し、新たな販路開拓や需要の掘り起こしに努めた。

繊維業界では今後も一定の展示会にターゲットを絞って継続出展し、リピーターとなる顧客の獲得に取り組むとともに、顧客のニーズに応じた新製品の開発などに注力する方針である。

なお、県においても、国内はもとより海外を意識した販路開拓や、デザイナーとの協働開発による新製品の創出などにより、繊維産業の振興に取り組む方向にあり、本機構としては県と連携し、展示会出展や新製品開発に対して引き続き支援を行う。

「バイクのふるさと浜松」は、バイクの持つ素晴らしい魅力を広めるとともに、「バイクのふるさと・浜松」を全国へ発信することを目的としたイベントである。平成26年度以降も引き続き当イベントを開催し、バイクの国内需要の拡大に努めるとともに、産業、文化、観光など多方面にわたり、バイクのメッカ浜松として全国へ向けて情報発信していく。(企画・広報G：松下恵介)

6 技術開発・新産業創出支援事業

決算額 15,189 千円（予算額 13,200 千円）

(1) 浜松地域 CFRP 事業化研究会（参加企業 45 社）

【目的】

次世代環境車をはじめとして将来輸送機器全般に必要とされる軽量化・高強度化・高性能化に対応するため、特に CFRP 材料に関する技術動向・技術情報の提供を行うとともに、浜松地域企業における CFRP の活用について調査研究及び技術の確立支援を行う。

【目標】

①本格的事業化・製品化の準備

第2フェーズとして、事業化に向けたプロジェクトを推進するとともに、CFRP 製品の用途開発分科会を立上げ、新製品開発のマーケティング調査を行う。

【実施内容】

(研究会の実施) 会場：静岡大学、イノベーション推進機構会議室、他

①講演会

4回（4月26日、6月28日、10月25日、12月6日）

講演8件、会員企業紹介19社、プロジェクト／用途開発分科会の活動報告

②UD プロジェクト

7回（7月8日、7月26日、9月25日、11月1日、11月27日、1月10日、2月10日）

プロジェクト計画の討議、補助金申請の打合せ、実行計画策定

③用途開発分科会

4回（5月14日、7月26日、9月26日、3月10日）

CFRP の特性と顧客、製品のサイズと顧客層、UD プロジェクトの製品への応用

【成果指標】

項目	実績		目標
	平成24年度	平成25年度	
①総会・講演会の開催	2回	4回	2回/年
②プロジェクト、部会、WG、分科会	1件	2件	2個以上/研究会

③会員の満足度 アンケート	未実施	未実施	役に立った が 70%以上
------------------	-----	-----	------------------

【総括】

平成 24 年度からスタートした第 2 フェーズは、本格的事業化を図るために、まず体制を一新した。企業から元ヤマハ(株)の室井氏を会長に迎え、静岡大学の早川准教授、島村准教授を副会長に委嘱した。

また第 1 フェーズの中心メンバーに理事に就任いただき、理事会で議論することとした。

本格的な事業化を目指すために、基礎ユニットとして、炭素繊維束を開織し一方向(UD)に並べ、流動性の低い熱可塑性樹脂を含浸させたテープを創成するプロジェクトを推進した。最終的には 9 社が参加し、イノベーション推進機構の補助金を獲得して、UD テープ製造装置を製造し、UD テープを本研究会で製造する能力を獲得した。平成 26 年度はこの装置を利用した UD テープからの製品の試作を実施する。

さらに用途開発分科会では、CFRP 製品のマーケティング検討を実施した。まとめた成果は出なかつたが、CFRP 製品の難しさが理解された。

課題としては、UD テープ製造において原料となる開織糸の価格が高価であり、またテープの幅が狭いため CFRP 製作時の手間が掛かる。新たに補助金を獲得して、開織機能、幅広テープの製造装置を製作したいが、補助金を申請できる企業が会員にいない。そのため来年度は限られた資金の中でのプロジェクト推進の方策を模索する。
(新技術開発 G : 前川昭二)

(2) 浜松地域チタン事業化研究会（参加企業：26 社、1 団体）

【目的】

次世代環境車をはじめとして将来輸送機器全般に必要とされる、軽量化・高強度化・高性能化に対応するため、特にチタン材料に関する技術動向・技術情報の提供を行うとともに、浜松地域企業におけるチタンの活用について調査研究及び技術の確立を支援する。

【目標】

平成 24 年 7 月をもって 3 年間の節目を迎えた。これを契機として、事業化研究会の活動も、技術習得・人材育成及び技術シーズ探索を中心とした第 1 フェーズから、本格的な事業化・製品化を視野に活動することとなった。

【実施内容】

①共同事業組合「HAMING」

4 社で独立し、医工連携拠点事業のスタートアップ補助金、ものづくり補助金、県の補助金などを得て、立ち上がり補助機、鉗子の試作などを行った。

②ラドル

橋本エンジニアリング(株)がものづくり補助金を得て、(株)榛葉鉄工所と協力しラドルをスピニング成形とホットプレスを組み合わせ試作に成功した。一方表面処理を独自開発し、浜松工業技術支援センターにて解析評価を行い好意結果を得たが、実地評価で溶損が生じ対策中。

③講演会

「日本のものづくり～鉄と車～」(7 月 16 日) 4 研究会共催
「チタンの切削加工～ウラノ製作所」(2 月 14 日)

【成果指標】

項目	実績		目標
	平成 24 年度	平成 25 年度	
①総会・講演会の開催	—	—	2 回/年
②プロジェクト、部会、WG、分科会	—	—	2 個以上/研究会
③売上げ	—	—	30,000 千円 (3 年間)
④特許、意匠登録	—	—	3 件 (3 年間)
⑤技術論文、リーフレット、ポスター他	—	—	3 件 (3 年間)
⑥その他（補助金獲得、新聞発表）	—	—	3 件 (3 年間)
⑦会員の満足度 アンケート（未実施）	—	—	役に立った が 70% 以上

【総括】

事業協同組合「HAMING」は、材質的にはステンレスが主体となり、また独自にテーマを探索し補助金を得て活動し始めたので、必要があれば支援するスタンスにシフトした。一方ラドルについては、専門メーカーとの連携や共同開発などが必要だと痛感している。（新技術開発G：山田徹）

（3）浜松地域マグネシウム事業化研究会（参加企業：44 社）

【目的】

次世代環境車をはじめとして将来輸送機器全般に必要とされる、軽量化・高強度化・高性能化に対応するため、特にマグネシウム材料に関する技術動向・技術情報の提供を行うとともに、浜松地域企業におけるマグネシウムの活用とその成形技術について研究開発及び知識・技術の習得を図る。

【目標】

具体的な対象製品を設定し、その製作過程でマグネシウムの成形技術を構築し、技術の高度化、差別化を図り、新製品への応用展開を行う。対象製品として、車椅子を選定。

【実施内容】

①講演会

- ・第 5 回研究会（10 月 16 日）
- ・第 6 回（3 月 13 日）
- ・その他表面処理部会、溶接・接合部会；隋時

②工場見学会

- ・堀金属表面処理工業㈱ 岡山工場（12 月 13 日）
- ・（有）岩倉溶接工業所、㈱NNH

③車椅子プロジェクト

- ・2 次試作品を国際福祉機器展に出展；浜松メッセに出展した 1 次試作品（折畳式）から、様々なアドバイスを得て 2 次試作は固定式に変更した。各社の協力のもと 5 台試作、表面処理も施した。更に、改良を加え、の浜松メッセ、バリアフリー展にも出展。

- ・表面処理を評価し、化成皮膜では 2 輪車の耐蝕基準を満たさないことが判明したため、将来的に「陽極酸化皮膜」を採用予定。

【成果指標】

項目	実績		目標
	平成 24 年度	平成 25 年度	
①総会・講演会の開催	—	—	2 回/年
②工場見学会	—	—	2 回/年
③プロジェクト、部会、WG、分科会	—	—	3 個以上/研究会
④売上げ	—	—	30,000 千円 (3 年間)
⑤特許、意匠登録	—	—	3 件 (3 年間)
⑥技術論文、リーフレット、ポスター他	—	—	3 件 (3 年間)
⑦その他（補助金獲得、新聞発表）	—	—	3 件 (3 年間)
⑧会員の満足度 アンケート（未実施）	—	—	役に立った が 70% 以上

【総括】

平成 25 年度の研究会活動は、全体会議 2 回、工場見学会 2 回、プロジェクト進捗会議 10 数回、溶接・接合部会、表面処理部会を数回開催し非常に活発に行なった。

車椅子も徐々に製作に慣れ改良に改良を加えた。出展も 4 展示会を行い、顧客ニーズ、課題などを把握した。新聞、TV などにも大々的に取り上げられ、川勝知事訪問も受けた。今後の課題として

- 1) ホットスタンピング技術、溶接技術の熟成、高度化
 - 2) 新技術、新製品の探索
 - 3) 販売を前提とした製作
- (新技術開発 G : 山田徹)

(4) 浜松地域ウルトラハイテン事業化研究会（参加企業：37 社）

【目的】

次世代環境車をはじめとして将来輸送機器全般に必要とされる、軽量化・強度化・高性能化に対応するため、特にウルトラハイテン材に関する技術動向・技術情報の提供を行うとともに、浜松地域企業におけるウルトラハイテンの活用について調査研究及び技術の確立支援を推進する。

【目標】

技術の深耕を目的とした専門部会を設立する。

【実施内容】

- ①総会・特別講演会
「日本のもづくりを考える～鐵と車～」（7月 14 日）
- ②工場見学会
 - ・新日鐵住金㈱名古屋製鐵所（12月）
 - ・トヨタ自動車㈱（1月）

③成形部会

- ・JFE スチール㈱より提供された 980MPa 及び材料物性データを用い。CAE、成形トライ、歪計測、3D 図面及び CAE 結果との照合を行った。
極めて有用なデータ、知見が得られ、6 社とも CAE に自信をもった。
- ・これを JFE スチール㈱に提供し、更に 1180MPa の提供を依頼したが断られた。一方工場見学会の折、新日鐵住金に打診したところ可能性ありとの反応だったので、名古屋製鐵所に出向き、背景、目的、相互のメリットなど話し合い、応諾を得たので平成 26 年度からスタートする。

【成果指標】

項目	実績		目標
	平成 24 年度	平成 25 年度	
①総会・講演会の開催	—	—	2 回/年
②工場見学会	—	—	1 回/年
③プロジェクト、部会、WG、分科会	—	—	1 個以上/研究会
④売上げ	—	—	30,000 千円 (3 年間)
⑤特許、意匠登録	—	—	3 件 (3 年間)
⑥技術論文、リーフレット、ポスター他	—	—	3 件 (3 年間)
⑦その他（補助金獲得、新聞発表）	—	—	3 件 (3 年間)
⑧会員の満足度 アンケート（未実施）	—	—	役に立った が 70% 以上

【総括】

- ・総会、講演会、工場見学会とも盛況であった。成形部会の活発な活動は、従来考えられない成果であり特筆すべきである。静岡大学の早川准教授に成形部会長をお願いし、全面的に協力頂いた。
- ・平成 26 年度は、冷間プレスではトップの 1180MPa に挑戦する。

（新技術開発 G：山田徹）

《参考》

4 研究会共通事項

（浜松地域 CFRP 事業化研究会、浜松地域チタン事業化研究会、浜松地域マグネシウム事業化研究会、浜松地域ウルトラハイテン事業化研究会）

【課題】

- 1) 研究会運営要員の不足
- 2) プロジェクト非参加企業へのサービス低下（プロジェクト優先になりがち）
- 3) 販路開拓による売上げ計上

【見直しポイント】

- 1) プロジェクト非参加企業への支援（講演会、工場見学会など）
- 2) プロジェクト活動の積極的な推進（特に売上げ計上、技術の、水平展開）
- 3) 広報活動の推進（展示会、新聞掲載、技術論文他）

【目標】

- 1) 講演会、工場見学会などプロジェクトに参加していない企業に対して、関心を持ってもらい、底上げを行う。
- 2) プロジェクト活動は、事業化研究会の根幹である。対象試作品を完成する中で技術の高度化、市場調査、製品販売を目指す。
- 3) 技術開発、製品開発の過程で、広報活動は重要である。マスコミ、展示会出展、論文など積極的に行う。

(5) 浜松地域パワーエレクトロニクス事業化研究会（パワエレ研究会）

【目的】

パワエレ技術を積極的に取り込もうとする事業所への“事業化支援”を大幅に強化し、地域への定着及び新事業の創出を狙う。すなわち浜松地域の輸送用機器産業において要求されているエレクトロニクス化に対応するため、EV車やサービスロボット、新エネルギー発電等、大電流を使用するパワエレ技術の事業化に重点を置いた支援を実施する。

【実施内容】

会員企業への事前ヒアリングの実施；下記の実施の前に会員企業を中心に9社をヒアリングし、パワエレ研究会に対する要望や意見、期待を確認し運営に反映した。

①セミナー「制御ソフトウェア設計開発環境講習会」開催

開催日：平成 25 年 9 月 3 日（月）14:00～17:00

会 場：イノベーション機構 8 階 セミナー室

受講人員：20 名（10 社）

②平成 25 年度総会・技術講演会開催

・平成 25 年度総会

開催日：平成 25 年 8 月 6 日（火）10:00～12:00

会 場：浜松商工会議所会館 7 階 労政会館第 3 会議室

内 容：新分科会長の選出、25 年度研究会運営方針、活動計画

説明、意見交換等

参加者数：21 名

・技術講演会

開催日：平成 25 年 8 月 6 日（火）13:00～17:00

会 場：浜松商工会議所会館 10 階 BC 会議室

内 容：「電気二重層キャパシタ（EDLC）とその応用」他

講 師：元 富士電機㈱ 木下 繁則氏 他

参加者数：63 名

③「次世代自動車における、電装化技術」セミナーの開催

開催日：平成 25 年 12 月 11 日（水）

会 場：浜松工業技術支援センター 大研修室

内 容：「次世代自動車における、電装化技術」

「電装化部品の展示と解説：トヨタアクアの分解部品」

講 師：サンコーネット技監／飛田 宏 氏

参加者数：79 名（20 社、1 大学）

④制御ソフトウェア技術セミナーの開催

開催日：平成 26 年 2 月 19 日、20 日、平成 26 年 3 月 5 日、6 日（4 日間）

会 場：浜松職業能力開発短期大学校（ポリテクカレッジ浜松）221 教室

内 容：「モータ制御の基礎」「リアルタイム OS の基礎」

講 師：静岡理科大学 大学院理工学研究科 教授 高橋 久 氏 他
受講人員：15名（8社）

【成果指標】

項目	実績		目標
	平成24年度	平成25年度	
①総会・講演会の開催 1回/年	—	—	2月実施
②セミナーの開催 2回/年	—	—	11月、2~3月の2回実施
③技術講演会の開催 1回/年	—	—	2月実施

【総括】

平成24年度の会員企業へのヒアリングや幹事会を通して、モータ制御技術の習得が直近での重要課題であると認識した。これを受け、(株)ルネサスソリューションズの協力も得て、実際に仕様検討から実装までの演習を含む制御ソフトウェア関連の技術セミナーを企画、実施してきた。

平成25年度の反省から、パワエレ研究会は、今回事業化研究会に重点を置く戦略に切り替えた。平成26年度は、幹事会等の議論を踏まえ、“事業化支援”を大幅に強化し、なおかつテーマを早急に明らかにし、顧客満足度の高い事業化研究会を進めるため、的確な各種イベントの実施と終了後のアンケートなどで指標達成レベルの把握を行う。（新技術開発G：塚本研一）

(6) 新産業創成事業

①事業化可能性調査費補助金

【目的】

浜松市内の中小企業者が、浜松市において戦略的に支援すべき産業分野として位置づけている成長6分野（次世代輸送用機器、健康・医療、新農業、光・電子、環境・エネルギー、デジタルネットワーク・コンテンツ）について、新たな技術や製品を事業化するために実施する事業化可能性調査（原理実証試験、技術調査、市場調査、類似製品・特許調査等）に対して、補助金を交付する。これにより、中小企業者の独創的な新技術開発や新製品開発を促進する。

【実施内容】

2回の公募で、補助金申請が計9件あり、うち4件を採択した。

<補助金交付額 3,395,620円>

（単位：円）

企業名	研究開発事業	交付額
(株)アイ電子工業	「超音波霧化装置を用いた植物栽培」	734,720
ディスク・テック(株)	「新型エックス線検査装置の事業性調査」	1,000,000
(株)ANSeeN	「フォトンカウンティング第1世代CT装置の事業化可能性調査」	1,000,000
(株)村松製作所	「タイ国進出に向けた硬質クロムメッキ及びサンドブラスト加工の市場調査」	660,900
計		3,395,620

【成果指標】

項目	実績		目標
	平成 24 年度	平成 25 年度	
①申請件数	一	9 件	10 件
②提案採択件数	一	4 件	5 件

【総括】

採択企業の事業化可能性調査では、予備的技術開発や市場調査により事業化のめどがついた。本事業は平成 25 年度から新たに実施した事業であり、本事業の存在がまだ十分に知られていないため、今後の課題は地域企業に広く周知を図ることである。そして、平成 25 年度採択した事業に対して、事業化を促進するため、専門家や助成金制度等の紹介、技術指導等のフォローを行っていく。（事業化推進 G：米谷俊一）

②3D 勉強会の開催

【目的】

浜松市、浜松イノベーションキューブ、静岡文化芸術大学と連携して、地域企業への 3D テクノロジーに関する情報提供や意見交換を行うことにより、地域企業の技術開発や事業展開を促進する。

【実施内容】

ワーキンググループの打合せを 5 回、勉強会を 2 回開催した。

第 1 回 3 次元データ活用そして 3D プリンターが、ものづくりを変える

日時：平成 26 年 1 月 24 日（金） 14：00～17：00

場所：グランドホテル浜松

講演：「富士通の「ものづくり革新」について」

講師：富士通株式会社 産業・流通営業グループ 熊谷博之 氏

出席者：62 名

第 2 回 3D 積層造形の先駆企業に学ぶ

日時：平成 26 年 2 月 19 日（水） 14：00～16：30

場所：浜松イノベーションキューブ

講演：「MSK の 3D 積層造形への取組み」

講師：株式会社エム・エス・ケー 代表取締役 松浦譲 氏

出席者：35 名

【成果指標】

項目	実績		目標
	平成 24 年度	平成 25 年度	
出席者数	一	97 名	120 名

【総括】

3D 技術に関心を持つ企業が勉強会に参加して、最新技術の動向把握やコミュニケーションを図る良い機会となった。今後、3D 技術の啓発をさらに図り、地域の企業や大学が集まって研究開発プロジェクトに着手できるように検討していく。（事業化推進 G：米谷俊一）

（7）次世代環境車推進事業

【目的】

平成 24 年 9 月に活動を満了した「はままつ次世代環境車社会実験協議会」の後継事業として、輸送機器関連企業を対象として、車を取り巻く新しい環境や技術開発に

ついて、啓発・検討する機会を提供する。

【実施内容】

「つながる自動車」を実現するための手段である ITS(高度情報システム)について、セミナーと勉強会を開催した。

①次世代環境車フォーラム講演会

～つながる自動車～ ITS の現状と将来展望から新たなビジネスチャンスを考える

日時：平成 25 年 9 月 13 日（金）13：30—17：00

場所：グランドホテル浜松

参加者：81 名

次世代環境車社会実験協議会活動報告：

車両走行実験結果 スズキ株式会社 次世代車両開発部 部長 真柴岳彦氏

充放電開発プロジェクト開発結果 静岡理工科大学 客員教授 恩田一氏

講演：

「ITS の概要と特徴」 特定非営利活動法人 ITS Japan 常務理事 大月誠氏

「株デンソーにおける ITS への取り組み」 株デンソー 担当部長 捧栄宏氏

②ITS 勉強会

第 1 回 出席者：22 名

日時：平成 25 年 5 月 9 日（木）14 時～16 時 30 分

場所：浜松労政会館第 3 会議室

講師：株日立製作所横浜研究所 河内尚氏

テーマ：次世代車載無線通信技術の動向と技術応用

第 2 回 出席者：20 名

日時：平成 25 年 5 月 23 日（木）14 時～16 時 30 分

場所：浜松労政会館第 3 会議室

講師：株日立製作所横浜研究所 河内尚氏

テーマ：国内における ITS の技術応用の展望

第 3 回 出席者：22 名

日時：平成 25 年 6 月 6 日（木）14 時～16 時 30 分

場所：浜松商工会議所 10 階会議室

講師：株日立製作所 大本周広氏

テーマ：ビッグデータ利活用で実現するビジネスイノベーション

第 4 回 出席者：22 名

日時：平成 25 年 6 月 24 日（木）14 時～16 時 30 分

場所：グランドホテル浜松

講師：株日立製作所 立仙和巳 氏

テーマ：スマートシティへの取り組みとまちづくりにおける車の活用と役割を考える

第 5 回 出席者：31 名

日時：平成 25 年 12 月 2 日（月）13:30～16:00

場所：浜松労政会館第 2 会議室

講師：国立大学法人名古屋工業大学グリーンコンピューティング研究所 プロジェクト教授 早川知道氏

テーマ：OpenStreetMap の概要及び Open Government と Government2.0 との連携の可能性

【成果指標】

項目	実績		目標
	平成 24 年度	平成 25 年度	
①セミナー参加人数	—	81 名	85 名
②勉強会参加者人数		117 名	・

【総括】

ITS(Intelligent Transportation System)は、国を上げて実用化が進められており、輸送機器業界に新たなビジネスチャンスをもたらすと考えられている。しかしながら、当地域においては、事業化の動きはほとんど見られない。今後も国や静岡県の取組み等にも注視しつつ、ITS 及び他の次世代環境車に関する動向を把握し啓発活動を続けていく。（事業化推進G：米谷俊一）

公Ⅲ 研究・技術開発成果の事業化

文部科学省が進める地域イノベーション戦略推進事業は、产学官金が水平連携型（ネットワーク型）の産業構造を構築し、最先端の光・電子技術を基盤として「浜松・東三河ライフフォトニクスイノベーション」を開拓して、「輸送機器用次世代技術産業」「新農業」「健康・医療関連産業」「光エネルギー産業」の4分野の基幹産業化を図り、より良いQOL (Quality of Life) を志向する安全・安心・快適で持続的な成長可能な社会を実現することを目指している。

研究開発事業化支援事業は、各種補助金等の競争的資金を活用し、浜松地域の中小企業が大学、公設試等の研究機関、産業支援機関等と連携して行う「戦略的基盤技術高度化支援事業（サポイン事業）」を始めとして、製品化に繋がる可能性の高い研究・開発及び販路開拓への取組を支援する。

また、市場・販路開拓支援事業は、地域の中小企業を中心に、国内・海外で開催されるビジネスマッチングを通して事業可能性の検証や市場調査、販路開拓に向けた支援を行う。

これらの事業により次世代産業分野、成長戦略分野における研究・技術開発を促進するとともに、新しい価値を提案し、将来のビジネスとして成立させていく。

1 地域イノベーション戦略推進事業

決算額 202,324 千円（予算額 221,730 千円）

【目的】

「浜松・東三河ライフフォトニクスイノベーション」構想に基づいて、光・電子関連技術を基盤に「輸送機器用次世代技術産業」「健康医療産業」「光エネルギー産業」「新農業」の4つの産業の基幹産業化を推進する。

【実施内容】

(1) 異分野・他分野融合の場「知のプラットフォーム」

ア コーディネート活動

取組内容	訪問企業数		秘密保持 契約締結数
	延企業数	実企業数	
①輸送機器用次世代技術産業	228 社	92 社	13 件
②健康医療産業	134 社	60 社	3 件
③光エネルギー産業	353 社	53 社	4 件
④新農業	254 社	78 社	3 件
合 計	969 社	283 社	23 件

イ イノベーションアリーナ運営会議の開催

イノベーションアリーナ運営会議を3回、支援チーム会議を5回、アリーナチーム運営会議を4回開催し、アリーナ活動の全体管理・調整を行った。

ウ 事業化検討セミナー等の開催

地域企業に対してセミナーを17回開催した。

番号	開催日	テーマ	参加者数等
1	平成25年9月27日(金)	電子技術回路設計者向け技術セミナー in 浜松「アナログ編」	92名
2	平成25年10月25日(金)	電子技術回路設計者向け技術セミナー in 浜松「デジタル電源&ブ拉斯レスモーター制御編」	79名
3	平成25年11月6日(水)	健康・医療産業参入のための薬事法対策セミナー「製造業許可・製造販売業許可の取得のために」	33名
4	平成25年12月4日(水)	健康・医療産業参入のための薬事法対策セミナー「製造販売承認・認証申請について(基礎編)」	36名
5	平成26年1月24日(金)	「3D勉強会」オープントピックセミナー富士通の「ものづくり改革」	60名
6	平成26年1月30日(木)	「放射線の正しい知識(性質、測定方法)」	22名
7	平成26年1月30日(木)	「薬の品質評価方法と装置」	25名
8	平成26年1月30日(木)	「産から学へのプレゼンテーション」	プレゼン7社 聴講46名
9	平成26年1月30日(木)	「多指ロボットハンドとその医学応用システム」	52名
10	平成26年1月30日(木)	「最先端介護ロボットの開発—回診ロボットTerapio—」	58名
11	平成26年1月30日(木)	電子技術回路設計者向け技術セミナー in 浜松「OPアンプ回路のキモと動作トラブル解決技法をSPICEツールで体感する(実習)編」	51名
12	平成26年1月31日(金)	電子技術回路設計者向け技術セミナー in 浜松「実測で理解するデータコンバータの性能最適化設計方法(実験と講義)編」	37名
13	平成26年1月31日(金)	電子技術回路設計者向け技術セミナー in 浜松「デジタル電源設計手法を実験で学ぶ(実習)編」	20名
14	平成26年1月31日(金)	電子技術回路設計者向け技術セミナー in 浜松「ブ拉斯レスモーターの制御を波形モニタを使って学ぶ(実習)編」	18名

15	平成 26 年 1 月 31 日 (金)	「テラヘルツ (THz) の使い方と応用機器」	35 名
16	平成 26 年 1 月 31 日 (金)	「健康長寿講座 健康に生きる」	120 名
17	平成 26 年 2 月 19 日 (水)	「3D 積層造形の先駆企業に学ぶ」	34 名

エ 展示会への出展等

地域企業の展示会等の出展支援等を 5 回行った。

番号	開催日	名称	会場	備考
1	平成 25 年 4 月 24 日 (木)～25 日 (金)	MEDTEC Japan 2013	東京ビッグサイト	浜松地域の企業からの依頼により展示支援を行った。
2	平成 25 年 8 月 29 日 (木)～30 日 (金)	第 54 回日本人間ドック学会学術大会	アクトシティ浜松	浜松地域の出展企業と他の出展企業の面談を設定し、面談への立ち会い・フォローを行った。
3	平成 25 年 10 月 29 日(火)～ 31 日(木)	IEEE NSS/MIC/RTSD Industrial Exhibition	Coex (Seoul, 韓国)	販売促進支援と顧客獲得を目的に知的クラスター事業の成果である株式会社 ANSeeN の製品の展示支援を行った。
4	平成 26 年 1 月 31 日 (金)	健康志向食品事業を訴求する商品展示会	アクトシティ浜松	健康長寿事業における機能性商品の紹介と市場調査を目的として展示会を開催した。参加者：120 名 ・三ヶ日みかんを活用した健康志向型商品の展示と機能性紹介 ・青紫蘇を活用した健康志向型商品の展示と機能性紹介 ・ルネッサンスマートを活用した健康志向型商品の展示と機能性紹介
5	平成 26 年 2 月 10 日 (月)～13 日 (水)	MD&M WEST2014	アナハイムコンベンションセンター	初めて出展を行う浜松地域の企業 3 社の事前準備、現地での支援を行った。

(2) 若手・中堅の研究者及び技術者の育成

地域イノベーション戦略の一環で、「光エネルギー」と「新農業」の分野において、平成 24 年度から光産業創成大学院大学及び豊橋技術科学大学が、それぞれ「光産業創成プロデューサー」、「先端植物工場マネージャー」の人材育成プログラムをスタートさせ、平成 25 年度も継続して本プログラムを実施した。

【人材育成プログラムの修了者数】

人材育成 プログラム名	平成 24 年度	平成 25 年度	合計	育成する人材
光産業創成プロデューサー	14 名	20 名	34 名	光技術・製品開発等経営に関する知識を深め自らイノベーションを生み出せる人材
先端植物工場マネージャー	13 名	20 名	33 名	安全で高品質、高収量生産と安定した植物工場経営ができる人材

(3) コーディネーター人材の充実

本地域のコーディネーターの資質向上を図るため、コーディネーターを対象として研修会を開催した。

ア 「グローバル時代の国際知財戦略」

“世界知的所有権機関(WIPO)のサービスを活用しよう”

講師：夏目健一郎氏 (WIPO日本事務所 所長)

主催：豊橋技術科学大学・静岡大学

共催：東海 iNET・CES チーム

場所：ホテルアークリッッシュ豊橋

開催日：平成 26 年 3 月 11 日(火)

参加者：25 名

内 容：

- ・国際特許制度の概要
- ・PATENTSCOPE 知的財産情報の検索、調査
- ・グローバルなオープン・イノベーション
- ・プラットホーム活動の紹介
- ・WIPO 仲裁調停センターの紹介 等

イ CES 人材育成研修会 (併設：公開講義)

日時：平成 26 年 3 月 14 日 (金)

場所：TKP 浜松アクトタワーカンファレンスセンター

参加：15 名

主催：CES チーム

幹事：静岡大学 イノベーション社会連携推進機構

第 1 部：研修 (非公開)

- ・趣旨説明、研修説明 (公益財団法人全日本地域研究交流協会 中崎理事)
- ・講義① 「SWOT 分析、SN 変換の使い方」
- ・グループ討議①
- ・全体討議①

第 2 部：公開講義 「事業をプロデュースするということ」

㈱イノベーションマネジメントコンサルティング 橋詰徹氏

対象：浜松・東三河地域の産業支援に関わるコーディネーター及びその関係者

第 3 部：研修 (非公開)

- ・グループ討議②
- ・全体討議②

(4) グローバル展開の強化

地域における技術開発成果の世界市場への展開に向けて、情報収集に努めるとともに、次の事業を実施した。

ア 「テクノ NET はまつ」の強化

「知的クラスター創成事業」(平成 19 年度～23 年度)により構築した「テクノ NET はまつ」(新規顧客開拓のためのマーケティングサイト)を、世界市場に向けた販路開拓の効果的なツールとして活用するため、英語版情報を発信した。

イ ドイツ・イエナ及びベルリン地域との交流

平成 22 年 3 月に旧（財）浜松地域テクノポリス推進機構とテューリンゲン経済振興協会及びオプトネット協会との間で締結した産業交流協定（MOU）の更新契約を平成 25 年 8 月に締結した。平成 26 年 2 月には、国際技術動向調査ユニットメンバーが当地を訪問し、具体的な浜松の地域企業を紹介し、交流を促進した。また、ベルリンにて当地 JETRO とも面談し、ベルリン地域ドイツ研究所や企業との連携も行うことを見た。

ウ ドイツ技術コンサルタントの起用

平成 24 年度には「知的クラスター創成事業」により創出された複数の光・電子関連の試作品について、技術コンサルタントを起用し、ドイツでの市場調査を行い、市場の興味が高い試作品群が特定された。平成 25 年度には、2 試作品について深堀調査を行い、これらの技術開発課題の洗い出しと潜在ユーザー群の特定を行った。

(5) 長期的教育システムの研究

本地域出身者が、将来の地域産業を支え、また、世界を舞台に研究開発分野で活躍できるような卓越した人材を育成する長期的かつ先進的な教育システムの導入について検討した。

ア 長期的教育システム研究チームの開催

産学官の関係者からなる「長期的教育システム研究チーム（座長：静岡大学副学長・イノベーション社会連携推進機構長 木村雅和氏）」において、9 回の会議を開催し、具体的な教育システムのあり方や実現方策について検討した。

イ 「New Education Expo 2013」の視察

教育に関わる様々な情報を発信している本展示会に参加して、最新情報を収集し、チーム内で検討している課外授業のカリキュラムやインターネットによる算数ゲーム大会「MATH やらまいか」の開催などの参考にした。

期 間：平成 25 年 6 月 7 日（金）～8 日（土）

会 場：東京ファッションタウン、大阪マーチャンダイジング・マート

参 加 数：木村チーム長を含む 3 名

ウ 「MATH やらまいか」の開催

小学生が、算数の競技を通して、よく見る力・よく聞く力・よく考える力（着眼・推理・分析・思考力）を養うことができる大会として、インターネットによる算数ゲーム「MATH やらまいか」を開催した。

【予選】

期 間：平成 25 年 10 月 5 日（土）～11 月 10 日（日）
参加方法：インターネットによる Web 参加（参加費無料）
参 加 者：小学生 1,614 名（上位 30 人中、全問正解者 4 名）

【本選】

期 日：平成 25 年 11 月 30 日（土）
会 場：浜松科学館ホール（浜松市中区北寺島町）
参 加 者：30 名（全問正解者 4 名）

エ 教育シンポジウムの開催

長期的教育システム研究チームの活動を地域の方々に理解していただくため、「教育シンポジウム」を開催した。

期 日：平成 26 年 1 月 11 日（土）
会 場：アクトシティ浜松コンгрессセンター 41 会議室
テー マ：浜松これからの教育を考える
内 容：①基調講演（林修・東進ハイスクール 東進衛星予備校 現代文講師）、
②活動報告と提案、③パネルディスカッション

【成果指標】

項目	実績		目標
	平成 24 年度	平成 25 年度	
①特許等出願数	95	96	162
②査読論文数	2,642	2,704	2,702
③参画企業数	62	69	50
④新規雇用者数	6	8	45
⑤事業化数	25	23	40

【総括】

平成 24 年 6 月に文部科学省から採択された地域イノベーション戦略支援プログラム「浜松・東三河ライフフォトニクスイノベーション・支援プログラム（補助事業）」の 2 年目が終了した。平成 25 年度は、支援プログラムの趣旨に沿った企業等のニーズと大学等のシーズのマッチングを行った。

輸送機器用次世代技術、新農業、健康・医療、光エネルギーの 4 戰略分野で合計 7 件の事業化ユニットを構築した。事業化ユニットは、その目標、開発ステージ、規模によって国、県、市の研究開発補助金を活用している。平成 25 年度は、23 件応募し、9 件採択された。また、平成 25 年度は、事業化を推進するため企業と秘密保持契約を 23 件締結した。なお、文部科学省の産業連携・地域支援部会地域科学技術イノベーション推進委員会で強調されている大学発ベンチャーについても知的クラスター創成事業に関連する大学発ベンチャー 1 社を支援し、黒字化した。

知的クラスター創成事業については、静岡大学の知財を活用して事業展開しているスピシアウトベンチャー 1 社の新ものづくり補助金（経済産業省）への応募を支援した。第 I 期の静岡大学の研究シーズと浜松医科大学等の研究機関の共同開発で商品化された JVC ケンウッドの注視点検出による発達障害診断補助装置「Gaze Finder」開発を支援した。

浜松・東三河地域知的クラスター創成事業から継承された開発途中の研究テーマについては、海外コンサルタント会社に委託して市場調査した結果を関係企業及び大学

研究者に報告し、研究開発の継続・中断については企業判断に委ねた。市場があると評価された研究テーマについては継続して事業化への支援を行った。

交流協定を継続したドイツ・テューリンゲン州開発局、イエナ市オプトネット協会とは、地域企業9社について事業内容を紹介し、光関連産業における情報交換等を実施した。

セミナーは合計17回開催した。そのうち、電子回路設計者向け技術セミナーin浜松は、アナログ・デバイゼズ社、ルネサスエレクトロニクス社他の協力を得て6回開催し（うち4回は実習）、参加者から高い評価を得た。

上記の活動については、産学官金の16機関の実務者で構成されるアリーナ運営会議で4半期毎に報告した。

今後も本支援プログラムの大きな柱である“本地域の特性を活かした持続可能な発展”ができる仕組みづくりを念頭において、今後の活動を推進していくとともに事業の可視化に努力していく。

2 国等の研究開発事業化支援事業

決算額 63,475 千円（予算額 68,369 千円）

【目的】

浜松地域の中小企業及び大学・試験研究機関が共同で行っている「戦略的基盤技術高度化支援事業（サポイン事業）」の管理法人として、研究開発の運営・管理を行い、開発を計画通り推進する。

【実施内容】

サポイン事業の管理法人として、下記の管理・運営業務を遂行した。

- ・プロジェクトの研究過程と成果に基づき、成果報告書を作成した。
- ・研究の進捗状況を確認し、発生した課題等を研究実施者と解決した。
- ・研究開発実施機関が作成する証憑書類について、指導・確認した。
- ・研究実務者会議、研究開発推進委員会を開催した。

《サポイン事業の概要》

①面荒れ抑制シリコンアニール法の研究と装置開発

研究機関：㈱プロダクトサポート、琉球大学、ディスクテック㈱

実施期間：平成23年度～25年度

開発成果：半導体に用いられているアモルファスSi膜のアニールに、現在、エキシマレーザが用いられている。この方法では、シリコンの表面荒れが大きく、また設備導入やメンテに巨大なコストがかかり、問題となっている。本研究は、市場で入手可能な青色レーザダイオードを用いて、表面荒れを抑制し、構造が簡単なアニール装置を開発することを目指した。平成25年度は最終年度に当たり、出力が1.6Wの青色レーザダイオードを21個を用いて、2つの異なったタイプの光源ヘッドを開発し、縦横比が大きく、高いエネルギー密度をもつラインビームを形成した。ラインビームをアモルファスSi膜に照射することにより、AFM画像からSiの表面荒さの突起高さが小さいこと、分光エリプソ結果からSiの結晶化を確認した。

②3Dプリント成形加工技術にもとづく医療用モデルの試作開発と販路開拓

研究機関：㈱アルテック、東北大学、千葉大学

実施期間：平成25年度～27年度

③柔らかいフィラーを使った低コスト・高性能な熱伝導シートの開発

研究機関：㈱大豊化成、大阪市立工業研究所、エス・ジー・ケイ(有)

実施期間：平成 25 年度～27 年度

【成果指標】

項目	実績		目標
	平成 24 年度	平成 25 年度	
受領委託金/委託契約額	0.982	0.987	0.99

【総括】

上記①のプロジェクトは、当初の目標を達成して 3 年間の開発を終了し、事業化に向けて大手の半導体製造装置メーカーと共同開発の交渉を進めている。②と③は、平成 25 年度に提案し採択されたプロジェクトであり、国の事務処理の遅れにより契約締結が遅れたため実質的な開発期間が非常に短かった。平成 26 年度はできるだけ早く契約を締結し研究を加速させる。（事業化推進 G：米谷俊一）

3 市場・販路開拓支援事業

決算額 5,057 千円（予算額 7,000 千円）

【目的】

市内中小企業（製造業）に対し、国内外（県内を除く）で開催される各種展示会への出展を促すとともに、首都圏を中心として市場・販路開拓に向けた支援を行う。

【実施内容】

(1) 中小企業展示商談会出展支援事業

①海外 応募企業数 4 社

交付決定額 1,200 千円（採択企業数：4 社）

交付確定額 1,198 千円（補助金交付企業数：4 社）

<出展展示商談会の名称>

- ・ FHM2013（マレーシア）
 - ・ EFTTEX 展示会（ドイツ）他
- ②国内 応募企業数 32 社
- 交付決定額 3,470 千円（採択企業数：32 社）
- 交付確定額 3,327 千円（補助金交付企業数：31 社）※1 社辞退
- <出展展示商談会の名称>
- ・ メッセナゴヤ 2013（名古屋）
 - ・ 国際画像機器展 2013（横浜）
 - ・ 国際福祉機器展 2013（東京）他

【成果指標】

地域	項目	実績（平均値）		目標
		平成 24 年度	平成 25 年度	
国内	①出展社数	24 社	32 社	35 社
	②ブース来場者数	169 名	155 名	170 名
	③名刺交換数	36 名	64 名	70 名
	④商談件数	2 件	9 件	10 件
海外	①出展社数	5 社	4 社	13 社
	②ブース来場者数	516 名	267 名	293 名
	③名刺交換数	0 名	104 名	114 名
	④商談件数	51 件	9 件	10 件

【総括】

補助金制度については、単に展示会への出展費用を補助するだけではなく、出展後に経営コーディネーターが出展企業を訪問し、ヒアリングによる成果の確認や必要なアドバイスを随時行った。これにより、個々の企業に対する販路開拓を支援することはできたが、今後は個々の企業への補助だけではなく、浜松地域全体のPRへつなげていくことが必要であると考える。

また、平成25年度は国内における隣接出展企業が3団体（計9社）あったが、浜松の地域色を出すまでの出展には至らなかった。平成26年度は制度の改善により、国内・国外の特定展示商談会に関して、複数企業による浜松地域共同ブースとしての出展を促し、共同出展を通じた商談成果の向上を図るとともに、「ものづくりの街・浜松」をPRしていく。さらに浜松市が強化施策として打ち出している海外ビジネス支援に連動して、今後海外をにらんだ展開を考えている浜松地域の中小企業が海外進出への足掛かりとなるよう、海外の展示商談会の視察や海外進出企業とのマッチング機会の場を企画していく。

さらに、出展企業の成果指標がきちんと統一化できていない現状の中で、出展後のアンケートやヒアリングの精度を上げるためにアンケートの内容などの改善を平成26年度は図っていく。（市場・販路開拓G：堤孝之）

公IV 債務保証事業

優れた技術力・製品開発力を有しながらも資金調達能力の乏しい中小企業やベンチャー企業の研究開発等を支援するため、静岡県の制度融資と連動して債務保証を行う。

1 債務保証事業

決算額 — 千円 (予算額 — 千円)

【目的】

地域中小企業が行う技術、商品の研究開発に係る資金調達の円滑化を図り、研究開発型企業の育成を促進する。

【実施内容】

静岡県特別政策資金融資制度の経営革新等支援資金（高度技術開発貸付）に連動して、中小企業が融資銀行から借り入れた研究開発資金に対して、債務保証（債務保証期間8年以内、保証債務残高 最大30百万円、無担保）を行うものである。

(1) 新規債務保証

平成25年度新規債務保証 0件

(2) 債務保証残高

平成25年度末の債務保証残高 2件／15,880千円 (前年比 78.7%)

(3) 債務保証対象企業の調査及び指導

債務保証中の2社の経営・財務状況資料等を収集し、その内容について調査を行い、返済に関する確認を行った。

(4) 求償権先に対する督促

求償権の適切な処理を行うため、求償権先10社、保証人28名に対して、弁護士を通じて支払い督促を実施、その状況について確認を行った。

(5) 求償権の償却処理

求償権先の10社を確認したところ、3社が法的措置を適用、4社が時効成立、2社が連帯保証人により些少の入金があるも時効は成立している。

債務保証事業業務方法書細則の規定により、連絡が取れる連帯保証人2名には今後とも督促を継続して行うものの、会計処理上は引当金を取崩し、1社を除き9社の求償権を償却する。なお、規定に該当しない残り1社1名に対しては、引き続き経営者との面談等を行い返済を求めていく。

参考 債務保証事業業務方法書細則 第26条

機構は、求償権等に係る債務の主たる債務者及び保証人が次の各号の一に該当し、当該求償権等の回収の見込みがないと認められる場合は、その全部又は一部を償却することができる。

(1) 破産、和議、会社整理、特別清算、会社更生法等の法的手続が終結した場合

(2) 死亡した場合

(3) 倒産又は事業閉鎖の状況に陥り、事業再開の見通しがない状態で3年を経過した場合

(4) 行方不明又は就業不能となったまま3年を経過した場合

(5) 事業不振に陥り、又は事業について重大な損失を受けたため、当該求償権等につき、みるべき入金がない状態で5年が経過した場合

(6) 収入が極めて貧弱なため、当該求償権等につき、みるべき入金がない状態で5年を経過した場合

(7) 前各号の規定に準ずる場合

項目	実績		(単位:千円) 目標
	平成 24 年度末	平成 25 年度末	
① 債務保証残高	20,175	15,880	—
② 求償権残高(貸倒引当前)	79,738	3,139	1,939

【課題】

当保証制度は、昭和 59 年度の制度創設以来、これまでに 100 社を超える企業に対して債務保証を行うことにより、地域のベンチャー企業等の育成を支えてきた。

しかしながら、破綻し代位弁済に至る企業があることから、保証先企業の経営状況等についても定期的に確認し、計画事業が円滑に成果を上げるよう、的確な支援を行っていくことが必要である。

また、求償権の償却については、債務保証事業業務方法書に基づき、H25 年度決算において適切な処理を行う。

【総括】

当保証制度は、優れた技術力、商品開発力を有しながら、資金調達力の不足等により、円滑な研究開発ができない地域中小企業のために必要な産業支援制度である。

(総務 G : 三井政則)

公V 高度技術振興事業

高度技術振興基金を活用し、地域企業への研究開発支援、高度情報技術者の育成支援等を通じて、技術の高度化や研究開発型中小企業の育成を目指す。

1 研究開発支援事業

決算額 793 千円（予算額 700 千円）

(1) 競争的資金チャレンジセミナー

【目的】

地域の研究開発型中小企業に対する研究開発支援のため、国等の各種支援事業の地域企業への情報提供や地域企業からの研究開発に関する各種相談への対応により、産学官による研究開発プロジェクトの形成や他企業・研究機関等への橋渡しを行う。

【実施内容】

戦略的基盤技術高度化支援事業（サポイン事業）チャレンジセミナー及び個別相談会を開催した。

①第1回チャレンジセミナー

開催日：平成25年11月13日（水）13:30～17:00

参加者：セミナー（31名） 個別相談会：6社

- 1) サポイン事業に関する支援について
- 2) サポイン事業の目的と概要・活用事例
- 3) 財団の各種助成事業の紹介
- 4) 個別相談会

②第2回チャレンジセミナー

開催日：平成26年3月14日（金）13:15～15:00

参加者：セミナー（15名） 個別相談会：2社

- 1) 平成26年度サポイン事業制度説明
- 2) 個別相談会

【成果指標】

項目	実績		目標
	平成24年度	平成25年度	
①セミナー参加者	43名	46名	50名
②個別相談会参加企業数	8社	8社	8社

【総括】

平成26年度から国の政策変更により「戦略的基盤技術高度化支援事業」が委託から補助金に変わり、また、基盤技術が22分野から統合された11分野に変更になるため、3月に第2回セミナーを実施し周知徹底を図った。しかし、制度の変更がまだ確定していなかったことや、「ものづくり補助金」など利用しやすい他の補助制度が充実してきたことにより、関心が低かった。今後、制度変更のポイントを的確に把握し、「戦略的基盤技術高度化支援事業」の有効活用を啓発していく。（事業化推進G：米谷俊一）

(2) 浜松地域資源活用研究会

【目的】

浜松地域に存在する未利用資源（放置竹林、森林、藻類、他）の有効活用を図り、事業化を行う。そのために浜松地域のものづくり技術を資源活用に応用する。まずは

放置竹林対策として伐採された竹の有効活用、畜産や農耕での利用による品質向上を重点的に促進する。

【実施内容】

①会員募集

会の発足を決め、会員募集を行った。最終的には 59 社(人)が入会した。竹林所有者、農畜産家、整備事業者、リサイクル業者、製造業者、大学、行政等、幅広い会員が集まった。

②発足式

平成 25 年 9 月 20 日

研究会規約、役員、活動方針の説明

講演会「未利用資源活用について」「竹やぶは危ない。しかし、竹林は宝の山」

③第 2 回研究会

平成 25 年 11 月 15 日

見学会（放置竹林の状況と伐採後の状況、十八農産において、竹の微粒子化作業と畜産・農業への応用状況）

見学後の討議

④第 3 回研究会

平成 26 年 2 月 7 日

理事会・事務局からの活動計画の提案

- 1) 放置竹林の利活用と畜産への応用展開
- 2) パーティカル・ファームのフィージビリティ・スタディ
- 3) 工業化検討会の立上げ

活動計画の討議

⑤理事会

平成 25 年 9 月 12 日、10 月 30 日、12 月 25 日、平成 26 年 2 月 25 日の 4 回開催。規約、活動方針、活動計画の審議。

⑥竹の工業化検討会

会員からの要請があり、検討会を発足。

平成 25 年 12 月 5 日、平成 26 年 1 月 16 日、2 月 18 日、3 月 18 日の 4 回開催。
竹を材料とする工業製品として、ランプ、机等の工業製品化の検討。

【成果指標】

項目	実績		目標
	平成 24 年度	平成 25 年度	
①事業化のスタートあるいは補助金獲得		0 件	1 件以上
②分科会の発足		1 件	1 件以上

【総括】

未利用資源の利活用の推進のために研究会を発足した。予想以上に多くの会員が集まり、しかも広範囲にわたっている。それぞれの会員が未利用資源に関して一家言を持っている人たちであり、それらを活かして活動に取り組む予定。まずは工業化検討会がスタートしたので、ここから事業化に結び付けたい。

平成 26 年度は、事業化を促進するために分科会活動を増加させ、補助金を獲得して活動を加速させたい。（新技術開発 G：前川昭二）

2 情報技術者等養成研修事業

決算額 602 千円（予算額 705 千円）

【目的】

地域中小企業の情報技術の高度化のため、最新の 3 次元 CAD/CAM の機能や CAD/CAM を活用した設計事例に関する研修を実施し、高度情報技術者等の養成を支援する。

【実施内容】

(株)カワイビジネスソフトウェア及び(株)アルモニコスと連携して、3 次元 CAD/CAM 及び構造解析等の操作体験セミナー、3 次元 CAD データ活用の操作体験セミナーを実施した。また、光産業創成大学院大学と連携して「レーザーによるものづくり中核人材育成講座」を実施した。

① 3 次元 CAD/CAM 操作セミナー

開催回数：9 回

会 場：(株)カワイビジネスソフトウェア 研修室

参加者数：51 名

研修内容：ソリッドワークス操作体験、3 次元 CAD データ修正・形状簡略化・ポリゴン等各種操作体験 2 次元フリーソフト

② 「レーザーによるものづくり中核人材育成講座」の開催支援

主 催：光産業創成大学院大学

共 催：公益財団法人浜松地域イノベーション推進機構

会 場：サーラシティ浜松、浜松労政会館等

参加者数：36 名（総勢）

研修内容：加工技術コース、産業応用コース

【成果指標】

項目	実績		目標
	平成 24 年度	平成 25 年度	
①参加者数 3 次元 CAD/CAM 操作セミナー参加者数	120 名	51 名	—
②レーザーによるものづくり中核人材育成講座参加者数		36 名	35 名

【総括】

平成 24 年度の 3 次元 CAD/CAM 操作セミナーの参加者数は、目標としていた 40 名を大きく上回った。しかし、平成 25 年度は、既に受講した人の数が多くなったことや、広報が不十分だったことにより、定員越えをすることがなく参加者合計は 51 名となった。なお、平成 26 年度、3 次元 CAD/CAM 操作セミナーは、3 次元デジタル技術講座と統合される。今後も受講者のニーズを把握してタイムリーな内容の講座を実施する。（事業化推進 G：米谷俊一）

3 研究成果の事業化支援事業

決算額 501 千円（予算額 800 千円）

【目的】

各地域の産学官連携推進機関との広域的な連携により、地域企業における国等の各種研究開発事業による研究開発成果の普及、国内及び国際的な市場に向けた事業化展開の一環として、その活動を支援する。

【実施内容】

「はままつ次世代光・健康医療産業創出拠点（はままつ医工連携拠点）」の活動計画を実現するため、具体的には拠点長及び事業総括として2人を浜松医科大学内に事務局を置く「拠点」に派遣し、はままつ医工連携拠点の下記の活動を（提案機関の一つとして）支援した。

《支援内容》

・拠点会議体の運営

①事業運営委員会〔2回〕 ②ワーキング会議（実務者会議）〔7回〕 ③事務局ミーティング〔1～2回／月〕の開催

・事業化支援活動としての主催・共催イベント等への開催協力 (健康・医療産業参入セミナーやメディカルイノベーションフォーラムの運営)

・事業化に向けた医療・介護現場のニーズとのコーディネート活動

医療・介護現場との情報交換会〔2回〕 医療・介護現場の見学会〔8回〕

・医療機器に関する情報取集のための関連団体との連携

（静岡県製薬協会、日本医療機器工業会、人間・ロボット共生リサーチセンター研究会などのセミナーおよび会合への参加。会員企業からの要望対応など）

・他拠点との交流

（浜松・信州拠点間交流会議2013、宇都宮・浜松地域間交流会、千葉大学フロンティア医工学センターとの相互訪問による交流会の開催、宇都宮大学・自治医科大学との交流、ファルマバレーセンターとの合同出展など）

・事業化支援のためのブース出展、イベント参加

（MEDTEC Japan2013、関東局医工連携出会いの広場、7Th ビジネスマッチングはままつ、日本人間ドック学会学術大会、第3回おおた研究・開発フェア、24Th はままつメッセ2014、ふじのくに新産業創出フェア、日本医療機器学会大会・機器展示会「メディカルショージャパン2013」など）

・静岡県委託事業（新成長産業戦略的育成事業）の実施とフォローアップ

①医工連携スタートアップ支援事業〔採択件数：8〕

②医工連携出会いのサロン〔出展会社：6、出展企業面談：8件〕

・医療相談への対応〔10件〕

特に医療機器および薬事法に関しての、地元企業および医療施設からの相談に対応

必要に応じて、浜医大の医療従事者との面談をセットアップ

・協同組合（HANING）の事業化検討支援

事業化検討会議の開催〔2回〕

・産学官医工連携ネットワークへの参画

「医療機器産業支援のためのワークショップ」（医療機器センター）

「静岡県コーディネーターネットワーク会議」

「コーディネーター・エキスパートシステム構築」

（大学等シーズ・ニーズ創出強化支援事業）

「静岡新産業集積クラスター成果発表会」など

・その他、セミナーや講演会等への参加を通じた普及活動や人材育成

【総括】

計画されていた事業化支援の取り組みは概ね実施できている。はままつ医工連携拠

点による実用化については、平成 24 年度に引き続き 1 件の実績を挙げており、取り組みの成果が実を結びつつあるとともに、今後の活動の弾みになると言える。

なお、はままつ医工連携拠点自体の具体的な活動成果及び次年度の計画等については、本事業の主母体である拠点の事業運営委員会にて報告されるものである。（新技術開発G：松浦脩博）

4 次世代自動車等技術調査事業

決算額 333 千円（予算額 600 千円）

【目的】

「はままつ次世代環境車社会実験協議会」が平成 24 年 9 月に活動を終了した後も実施された車両実験や開発プロジェクトをフォローする。

【実施内容】

走行実験車両を借り受け公用車として利用しデータ採取に協力した。また、「次世代環境車フォーラム講演会」にて車両走行実験結果と充放電プロジェクトの開発成果を報告した。

【成果指標】

項目	実績		目標
	平成 24 年度	平成 25 年度	
①協議会活動報告件数	2 件	2 件	-
②技術調査件数			2 件

【総括】

今年度にて「はままつ次世代環境車社会実験協議会」のすべての事業が終了したことから、今後は「次世代自動車」だけではなく、デジタルネットワーク・コンテンツなどに関連する新しい技術開発について啓発活動を実施する。なお、当事業は平成 26 年度から「次世代技術調査事業」と名称変更し調査対象を拡大する。（事業化推進G：米谷俊一）

公VI 地域産業活性化事業

地域産業活性化基金を活用して、中小企業の製品開発、技術開発等に関する補助金の交付や「はままつメッセ」の開催による販路開拓支援等を通じて、地域産業の活性化を目指す。

1 地域産業活性化補助金交付事業

決算額 5,921 千円（予算額 6,200 千円）

【目的】

地域産業の活性化に寄与することを目的に、技術革新の進展に即応した技術を製品の開発又は生産等に利用し事業化を図る中小企業者に対して、その必要経費の一部を補助する。

【実施内容】

補助金申請が計7件あり、うち4件を採択した。開発成果を「はままつメッセ 2014」にて発表できるように支援した。

<補助金交付額 5,862,792 円>

（単位：円）

企業名	研究開発事業	交付額
日静ベクター(有)	「高速成形に対応した熱可塑性C F R P 成形素材製造装置の開発」	1,600,000
橋本螺子(株)	「軽量高強度ボルトの開発」	1,462,792
サイバーダインシステムズ(有)	「土壤分析器とソフト開発」	1,200,000
川島米穀店	「遠州の玄米・古代米を原料とした新発酵食品の開発」	1,600,000
計		5,862,792

【成果指標】

項目	実績		目標
	平成 24 年度	平成 25 年度	
①申請件数	13 件	7 件	10 件
②提案採択件数	6 件	4 件	4 件

【総括】

本事業の採択企業は、事業化に向け、技術開発や研究開発を進めることができた。今後、販路開拓も含め事業化をフォローする。課題は、申請件数が少なかったため、地域企業へ周知を図るとともに、事業化につながる案件を掘り起こすことである。（事業化推進G：米谷俊一）

2 総合展示会「はままつメッセ」の開催

決算額 11,413 千円（予算額 13,108 千円）

【目的】

浜松地域の企業、大学、研究機関等を中心に、販路開拓を目指す技術・製品・サービス等を展示し、日頃の活動成果や技術・製品等を紹介するとともに、来場者と参加の交流・情報交換を通じて、ビジネスチャンスの提供と新たな需要の掘り起こし、企

業連携の拡大を図る。

【実施内容】

財団のスローガンである“科学・技術と知恵・感性の融合”をメッセのテーマとして掲げ、「第24回はままつメッセ 2014」を以下のとおり開催した。

なお、併催事業として「イノベーションアリーナセミナー」（主催：浜松・東三河地域イノベーション戦略推進協議会）が開催された。

日 時：平成26年1月30日（木）～31日（金）

会 場：アクトシティ浜松 展示イベントホール

来場者数：3,738人 ※両日来場者は1人としてカウント

（1月30日2,457人、1月31日1,981人）

出展企業：161社・団体（計198小間）

内、静岡県内115社、県外46社、（初出展49）

出展分野別		29
①機械金属		24
②光・電子		9
③健康・医療		3
④新農業		11
⑤デジタルネットワーク・コンテンツ		13
⑥環境・エネルギー		29
⑦生活文化・その他		23
⑧支援機関		9
⑨都道府県（※三重県、北海道）		10
⑩3Dプリンター特設展示		※①～⑥は浜松地域成長6分野（これからの成長市場）

①出展者ミニプレゼンテーション：

販路開拓のため、出展者による新技術・新製品発表を行っていただくミニプレゼンテーションの場を展示会場内に設置。

持ち時間15分で1日目4企業・団体、2日目8企業・団体が発表。

②基調講演：「ビッグデータ活用」をテーマに、経営と統計学それぞれの第一人者の講師による対談形式の講演会を開催。また、浜松の企業・団体関係者が参加し、統計学活用の事例紹介や講師を交えたパネルディスカッションも実施。（201名参加）

③マーケティング個別相談会：

独立行政法人中小企業基盤整備機構関東本部より販路開拓プロジェクトマネージャーを相談員に迎え、事前申込制の個別相談会を実施。（7社）

④販路開拓セミナー（事前開催）：

独立行政法人中小企業基盤整備関東本部の協力を得て、出展者を対象とした販路開拓セミナーを開催。

・9月5日（木） 場所：ホテルヴィラくれたけ

販路開拓セミナー基本編「成功の確率をアップさせる、販路開拓の進め方」 参加企業・団体／23社（25名）

・11月7日（木） 場所：ホテルヴィラくれたけ

販路開拓セミナー展示会編「相手に思いを伝える手法を学びませんか？」 参加企業・団体／14社（17名）

【成果指標】

項目	実績		目標
	平成 24 年度	平成 25 年度	
①出展者数	150 社	161 社	—
②来場者数	3,680 人	3,738 人	—
③取引成立社数（総数）	6 社	5 社	—
④取引成立金額（総額）	456 千円	1,175 千円	—

※③④は開催 1か月後の出展者アンケートによる（回答数：平成 24 年度 91 社、平成 25 年度 73 社）

【総括】

今回は、はままつメッセとオプトロニクスフェアを統合し、かつ財団内の各グループの代表者で構成する小委員会制度の導入により、企画や運営を組織横断的な体制で実施した。それにより、多様なアイデアの創出や既存事業との連携を図ることができた。

出展者数については、プラス 11 と微増だが、会場内の混雑感や回遊性を考慮すると妥当な数字である。また、初出展者数が全体の 3 割を占め、新たなマッチングの機会提供に繋がったと思われる。基調講演においては、アンケート回答者（n=63）の 9 割超が「有効な情報を得た」と回答しており、統計学をビジネスに活用する機運の向上につながったほか、出展者ミニプレゼンテーションに関して、個々の企業に事前アドバイスを行い、効果的なプレゼンの実施に努めた。

しかしながら一方では、産業のグローバル化が一層進む中、全国はもとより海外に販路や進出を求める地域企業が増えつつあり、企業のニーズは地元企業同士のマッチングよりもグローバルな対象を相手にした販路開拓・異業種交流に変わってきている。それに伴い、多くの企業は地元で行われる展示会よりも、販路開拓やマッチングの機会が豊富な首都圏の展示会を求めている現状がある。

このため本機構としては、今後の販路開拓支援を次のステージへと発展的に移行することとし、地元開催のメッセは平成 25 年度で一区切りとして終了する。今後は、展示会出展に関する既存の補助金制度を活用し、地域企業の首都圏等展示会への出展を促していくほか、新たなマッチング支援策として、特定分野にターゲットを絞った個別商談会の開催や地域色を出した共同ブース出展などに取り組んでいく。（市場・販路開拓 G：岩井敏雄）

3. 商品化、事業化支援事業

決算額 171 千円（予算額 350 千円）

【目的】

地域中小企業の新製品・新技術等の販路開拓を図るため、各種展示会の視察・調査を行い、効果的な展示会出展支援を可能にする。

【実施内容】

類似した展示会（食品関連他）を視察し、出展企業や来場者属性、出展成果等について比較検討を行ったほか、東京と大阪で開催される同種展示会について、開催地域による特性の違いを認識した。

視察対象展示会は以下の通り

- ①インターナショナルギフトショー東京
(グルメ&ダイニングスタイルショー※)
- ②スーパー・マーケットトレードショー※
- ③ホテル&レストランショー※

④FOODEXJAPAN※

⑤インターナショナルギフトショー大阪

⑥インターナショナルポートショー

⑦国際自動車素材・加工展

※食品関連展示会

【成果指標】

項目	実績		目標
	平成 24 年度	平成 25 年度	
展示会視察	—	9 件	—

※平成 24 年度は「ふじのくに販路開拓展 2012」「中部ものづくり基盤技術展」への出展案内を実施（集計なし）。また、26 年度は本事業を実施しないため、平成 25 年度実績のみ記載。

【総括】

展示会視察により収集した情報を生かし、近年増えつつある食品関連を中心とした支援先企業からの「どの展示会に出展すべきか？」との質問に対し、個別企業の実情に合った展示会出展の提案を今後行っていく。

「インターナショナルギフトショー」については東京・大阪開催を視察し、比較・検討、また他展示会の視察と併せ、財団としての支援ノウハウ獲得に努めた。今後は地域企業への還元・情報発信に注力し、より効果的な支援に繋げていく。（市場・販路開拓G：小長井航）

4 販路開拓のための人材育成事業

決算額 0 千円（予算額 200 千円）

※はままつメッセの経費に包含

【目的】

中小企業が抱える自社製品の販路開拓に関する具体的な問題に対し、講師を迎えて個別相談会を実施し、販路開拓に係る知識向上を図り、担当者の人材育成を行う。

【実施内容】

講師：独立行政法人中小企業基盤整備機構関東支部

販路開拓チーフアドバイザー 青島 弘幸 氏

会場：はままつメッセ 2014 会場内（アクトシティ浜松 展示イベントホール）

①開催日：平成 26 年 1 月 30 日（木）11:00～16:00

相談件数：3 件

相談企業：（株）スカイロジック、（有）鈴上電気、神谷加工所

②開催日：平成 26 年 1 月 31 日（金）10:00～15:00

相談件数：4 件

相談企業：（株）システムジャパン、浜松モザイカルチャー普及協会、（株）松下工業
クリスタルホトインダストリー（株）

【成果指標】

項目	実績		目標
	平成 24 年度	平成 25 年度	
①販路開拓相談	4 件	7 件	—
②事業評価相談	1 件	0 件	—
③自社ブランド相談	1 件	0 件	—

【総括】

「はままつメッセ 2014」の会場にて、販路開拓の実践と理論を結びつけた相談会を開催した。相談企業の共通の課題としてマーケティングの知識不足やマーケットリサーチ及び具体的な販売戦略の欠如、消極的な営業活動の実態などが挙げられる。相談企業に対しては、専任の営業担当者を配置した販促活動の強化や販売代理店との提携、委託販売による販促活動の強化、専門家の指導によるマーケティングの知識の向上など具体的なアドバイスが提案された。また、人材育成のため、相談企業の社長及び担当者が講師から直接マーケティング知識等のアドバイスを受ける機会を設けた。

販路開拓に関し専門的な知識を有している講師のアドバイスとともに、中小企業基盤整備機構との連携を図る上で有益な個別相談会となった。当該企業にはそれぞれ担当者を割り当て、相談会への誘導及び相談会への同席による課題の共有とともに、マーケティング個別相談会相談結果報告書を作成した。

今回の相談により課題解決しない場合、継続支援を行っていく。相談企業からは、適切なアドバイスによって今後の活動方針の明確化や人材育成の一助につながり、意欲的に取組むことができるとの評価を受けた。

「はままつメッセ」が今年度で終了したことに伴い、浜松ビジネスマッチングフェアとの連携による実施を考えていく。(市場・販路開拓G : 馬場博)

参考資料

財 団 の 運 営

1 基本財産及び基金

(単位 千円)

基本財産・ 基金 出捐者	基本財産	債務保証 基 金	高度技術 振興基金	地域産業 活性化基金	合 計
静 岡 県 (うち国庫支出額)	60,000	113,000	180,000 (147,790)	660,000 (330,000)	1,013,000 (477,790)
浜 松 市	430,000	113,000			543,000
(旧浜松市)	(430,000)	(63,070)			(493,070)
(旧浜北市)		(20,440)			(20,440)
(旧天竜市)		(11,080)			(11,080)
(旧細江町)		(9,430)			(9,430)
(旧引佐町)		(8,980)			(8,980)
民間企業 (社 数)	115,700 (33)	134,000 (31)			249,700
合 計	605,700	360,000	180,000	660,000	1,805,700

平成 26 年 3 月 31 日現在

2 役員及び委員

(1) 理事・監事(定款第22条)

平成26年3月31日

(氏名 五十音順)

	氏名	所属	役職
理事長	津田 紘	スズキ(株)	相談役
理事	大坪 豊生	ヤマハ発動機(株)	顧問
〃	加藤 博万	ヤマハ(株)	前顧問
〃	木村 雅和	静岡大学 イノベーション社会連携推進機構	副学長・機構長
〃	佐野 良夫	(株)河合楽器製作所	副社長執行役員
〃	鈴木 和博	浜松信用金庫	専務理事
〃	鈴木敬太郎	中部ガス(株)	取締役管理本部長兼浜松支社長
〃	原 勉	浜松ホトニクス(株)	常務取締役中央研究所長
〃	古橋 敏明	(社)静岡県繊維協会	副会長
〃	蓑島 伸生	浜松医科大学	副学長
専務理事	増田 洋介	(公財)浜松地域イノベーション推進機構	事業推進部長
理事	三井 啓義	(公財)浜松地域イノベーション推進機構	事務局長・総務企画部長
監事	山内 致雄	(株)電興社	代表取締役社長
〃	中野 純	中野純公認会計士・税理士事務所	所長

(2)評議員(定款第12条)

平成26年3月31日

(氏名50音順)

氏名	所属	役職
評議員 荒木 信幸	静岡理工科大学	学長
" 安形 秀幸	浜松市	産業部長
" 池田 祥巳	中部電力(株)	静岡支店 浜松営業所長
" 石川 晃三	(株)ソニック石川	代表取締役会長
" 加藤 義章	光産業創成大学院大学	学長
" 榊 佳之	豊橋技術科学大学	学長
" 杉本 浩利	(株) 静岡銀行	常務執行役員
" 中安 茂夫	エンシュウ(株)	代表取締役会長
" 服部 貴應	(株)エヌエスティー	代表取締役社長
" 望月 誠	静岡県	経済産業部商工業局長
" 守田 泰男	遠州信用金庫	理事長

3 会議

(1)理事会

①平成25年度 第1回理事会

開催日時	平成25年6月6日(木) 10:00~
開催場所	浜松地域イノベーション推進機構 8階会議室
出席者	10名
審議事項	
第1号議案	平成24年度事業報告について
第2号議案	平成24年度収支決算(貸借対照表、正味財産増減計算書及び財産目録)について
第3号議案	定時評議員会の日時及び場所並びに目的である事項等について
報告第1号	理事候補者について

②平成25年度 第2回理事会

開催日時	平成25年10月2日(水) 15:00~
開催場所	浜松地域イノベーション推進機構 8階セミナー室
出席者	11名
審議事項	
第1号議案	平成25年度収支補正予算(案)の件
第2号議案	平成25年度第2回評議員会の日時及び場所並びに目的である事項等について
報告第1号	職務執行の状況
報告第2号	評議員選任の件

③平成25年度 第3回理事会

開催日時	平成26年2月20日(木) 10:00~
開催場所	浜松地域イノベーション推進機構 8階セミナー室
出席者	9名
審議事項	
第1号議案	平成26年度事業計画(案)の件
第2号議案	平成26年度収支予算(案)の件
報告第1号	評議員の辞任について

(2)評議員会

①平成 25 年度 第 1 回評議員会

開催日時	平成 25 年 6 月 14 日 (金) 15:00~
開催場所	浜松地域イノベーション推進機構 8 階会議室
出席者	6 名
審議事項	
報告第 1 号	平成 24 年度事業報告について
第 1 号議案	平成 24 年度収支決算(貸借対照表、正味財産増減計算書及び財産目録)について
第 2 号議案	理事の選任について
報告第 2 号	評議員の辞任について

②平成 25 年度 第 2 回評議員会

開催日時	平成 25 年 10 月 17 日 (木) 15:02~
開催場所	浜松地域イノベーション推進機構 8 階セミナー室
出席者	6 名 (第 2 号議案より 10 名)
審議事項	
第 1 号議案	評議員選任の件
第 2 号議案	平成 25 年度収支補正予算(案)承認の件
報告第 1 号	職務執行の状況

③平成 25 年度 第 3 回評議員会

開催日時	平成 26 年 2 月 21 日 (金) 10:00~
開催場所	浜松地域イノベーション推進機構 8 階セミナー室
出席者	7 名
審議事項	
第 1 号議案	平成 26 年度事業計画(案)承認の件
第 2 号議案	平成 26 年度収支予算(案)承認の件
報告第 1 号	評議員の辞任について

4 研究会推進事業(企業連携交流促進事業)

(1) 異業種交流グループ

平成 26 年 3 月 31 日

名 称	代 表 者	発足年度	現会員数
ア. TMプラザはままつ	会長 神谷 文吾 神谷理研(株) 代表取締役社長	昭和 62 年	34 社
イ. 浜松技術交流プラザ 82	代表幹事 山本 純夫 (株) テクニカルサポート 代表取締役社長	昭和 57 年	14 社
ウ. 都田アソシエイツ	代表幹事 服部 貴應 (株) エヌエスティー 代表取締役社長	平成 5 年	56 社

(2) 成長分野研究会

平成 26 年 3 月 31 日

名 称	代 表 者	発足年度	現会員数
ア. VB・VC研究委員会	委員長 川島 順三 浜松堀留(株) 代表取締役社長	昭和 58 年	17 社
イ. ソフトウェア産業振興研究委員会	委員長 山内 致雄 (株) 電興社 代表取締役社長	昭和 59 年	31 社
ウ. 先端精密技術研究会	会長 柴田 義文 静岡技術移転合同会社 代表社員	平成 10 年	48 社 21 名
エ. 次世代設計・製造構造研究会	会長 戸上 常司 ヤマハ発動機(株) 元顧問	平成 19 年	20 社 3 校

※浜名湖のりブランド推進協議会は平成 25 年 8 月 16 日をもって自立運営。

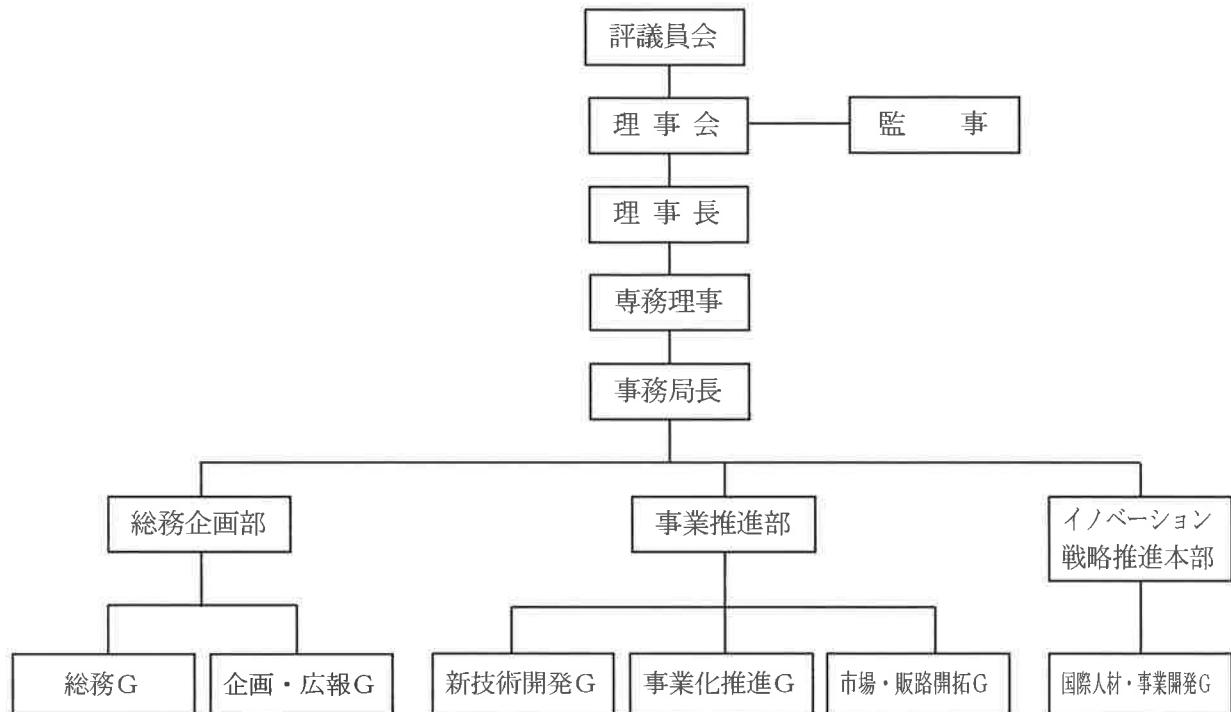
5 賛助会員

平成 26 年 3 月 31 日

1	日星電気 (株)	代表取締役会長	河野 勝男	浜松市西区大久保町 1509
2	(株) 吳竹莊	代表取締役社長	山下 智司	浜松市中区東伊場 1-1-26
3	グランドホテル浜松	総支配人	繁本 武雄	浜松市中区東伊場 1-3-1
4	(協) テクノランド細江	理事長	山本 純夫	浜松市北区細江町中川 7000-1
5	(株) 平安コーポレーション	代表取締役	鈴木 通友	浜松市北区新都田 1-5-2
6	パルステック工業 (株)	代表取締役社長	鈴木 幸博	浜松市北区細江町中川 7000-35
7	(株) 高井製作所	代表取締役	高井 理恵	浜松市東区有玉南町 1168
8	エンシュウ (株)	代表取締役会長	中安 茂夫	浜松市南区高塚町 4888
9	(株) エヌエスティー	代表取締役社長	服部 貴應	浜松市北区新都田 4-3-1
10	中野純公認会計士事務所	所長	中野 純	磐田市今之浦 4-17-10
11	(株) 遠鉄トラベル	代表取締役社長	広瀬 光彦	浜松市中区旭町 12-1
12	(株) ユニバンス	代表取締役社長	村松 道奏	湖西市鷺津 2418
13	やまと興業 (株)	代表取締役社長	小杉 昌弘	浜松市浜北区横須賀 1136
14	(株) 電興社	代表取締役社長	山内 致雄	浜松市南区御本町 98
15	ローランド ディー.ジー. (株)	取締役社長	富岡 昌弘	浜松市北区新都田 1-6-4
16	東海電子印刷 (株)	代表取締役社長	伊藤 均	浜松市南区若林町 888-122

6 事務局体制
〔組織図〕

平成 26 年 3 月 31 日



評議員	11
理事	12
監事	2

総務企画部	
部長	1
グループ長	2
職員	1
嘱託職員	3
派遣職員	1

事業推進部	
部長	1
グループ長	3
コーディネーター	9
主幹	2
主任	2
嘱託職員	2
派遣職員	1

イノベーション戦略推進本部	
本部長	1
本部長代理	1
本部次長	1
主幹	1
プロジェクトマネージャー	1
コーディネーター	13
事務補助員	4